



学校要覧 2019

沖縄で学ぶ 沖縄から世界へ
咲かせよう未来最南の地から最先端へ



本科

■ 機械システム工学科
■ メディア情報工学科

■ 情報通信システム工学科
■ 生物資源工学科

専攻科

■ 創造システム工学専攻



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校



ご挨拶

独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
校長 安藤 安 則

(独)国立高等専門学校機構・沖縄工業高等専門学校は平成16年4月に第1期生を迎えてから16年目と、全国にある国立高専の中で最も若い高専であり、沖縄県名護市辺野古の美しい海を臨む自然豊かな丘陵地に位置しています。

本校には、機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科の本科4学科と各学科共通の教養科目を担当する総合科学科、本科卒業等の後に更に高度な専門教育を行う2年制の専攻科を置いています。また、平成27年度より、沖縄県の21世紀ビジョンに寄与すべく、国立高専として初となる「航空技術者プログラム」をスタートさせ、また需要の高い情報セキュリティ人材育成プログラム、水中ロボットやドローン(小型無人航空機)開発プログラム、バイオ・インフォマテックス(生命情報学)人材育成プログラム、沖縄県産品から機能性食品開発等を推進しております。

「人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成に、社会の発展に寄与する」を本校の教育理念としており、創造性ある実践的技術者を育成するため、すべての科目にPBL(Project-Based Learning、課題解決型学習)の手法を導入していることも大きな特色です。

本校では、1年生、2年生は寮に優先的に入ることが出来、2年生までクラスは入学学科に関係なく混合学級を取り入れています。3年生からは専門学科に分かれますが、この寮生活や混合学級により、学生たちの学科を超えた繋がりは強く、卒業後もその絆は続いています。

課外活動にも積極的に参加しており、平成20年度の第21回全国高専ロボットコンテストや平成28年2月に開催された総務省の第2回ICTビジネスモデル発見&発表会で優勝を果たした他、平成29年3月の日刊工業新聞主催の理系学生論文コンテストで最優秀賞を獲得し、また令和元年6月に開催された「高専ワイヤレスIoT技術実証コンテスト」総務大臣賞の受賞など、優秀な成績を収めています。

キャリア教育としては、キャリア形成のための講演会やセミナーなどを開催している他、インターンシップを必修科目として開設しています。卒業生は、機械・電機・情報通信・食品・医薬品などの企業へ就職、本校専攻科や国公立大学の進学と、多様な分野で活躍しています。本校は、教育・研究のグローバルスタンダード化と多様化・高度化する社会のニーズに応える人材育成の強化を基本方針とし、本校が位置する沖縄の地域特性を活かしつつ、教職員・学生等との協働によって、本校が掲げる教育理念の実現と更なる飛躍を目指してまいります。先端科学技術を身に着け、広い視野に立ち沖縄の発展への貢献を目指す中学生の皆さん、沖縄高専で最新テクノロジーを勉強し、自分の夢の実現に挑戦してください。

校章の由来



沖縄高専の位置する「やんばる（沖縄本島北部）の深き緑」と「青き豊かな海」を表現し、周囲を取り囲む円で「沖縄の青い空」を表している。

校歌

沖縄工業高等専門学校校歌

作詞 古賀 義伸
作曲 上江洲安彦
編曲 上江洲安彦

Allegretto
♩ = 116

1 ふ か き - みどりの や ん ば る の お か
2 へ の こ - のうみ を み は る か す お か
3 に ほ ん - のみな み ちゅ ら し ま の お か
4
5
6 に - そびえ し ま な び や に ゆめ を - もとめ
7 に - そびえ し ま な び や に たい し - いだき
8 に - そびえ し ま な び や に せ か い - めざし
9
10
11 て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に
12 て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に
13 て つ ど い し わ れ ら - と も - と - と も に
14
15 し と と も に ぎ じ ゅ つ の - ち へ い を き り ひ ら く あ
16 し と と も に み ち な る - う な ば ら こ ぎ す す む あ
17 し と と も に バ イ オ ニ ア の - こ こ - ろ れ ん め ん と あ
18
19 あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け
20 あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け
21 あ お き な わ こ - せ ん ひ か り - か が や け
22
23

- 一、深き緑の山原の
丘に聳えし学び舎に
夢を求めて集いし我ら
友とともに、師とともに
技術の地平を切り拓く
ああ、沖縄高専
光り輝け
- 二、辺野古の海を見晴るかす
丘に聳えし学び舎に
大志抱きて集いし我ら
友とともに、師とともに
未知なる海原漕ぎ進む
ああ、沖縄高専
光り輝け
- 三、日本の最南、美ら島の
丘に聳えし学び舎に
世界目指して集いし我ら
友とともに、師とともに
パイオニアの精神連綿と
ああ、沖縄高専
光り輝け

目 次

高等専門学校の概要	1	情報処理センター	36
教育理念・目的・教育目標・三つの方針	2	IT 教室	37
本 科	10	CALL 教室	37
■ 機械システム工学科	10	視聴覚ホール	37
■ 情報通信システム工学科	12	教育・実験棟	38
■ メディア情報工学科	14	体育施設	38
■ 生物資源工学科	16	沿革	39
■ 総合科学科	18	組織	40
専攻科	20	◆教職員数	40
■ 創造システム工学専攻	20	◆会議・委員会	40
特色のある教育	22	◆事務部連絡先	40
■ 航空技術者プログラム	22	◆組織図	41
■ 情報セキュリティ人材育成事業	22	教員の研究活動	42
学 生	23	建物配置図・土地・建物	43
◆学生定員・現員	23	学校行事	44
◆入学志願者及び入学者	23		
◆地域別入学者数	24		
◆高等学校等就学支援金制度	25		
◆授業料免除制度	25		
◆奨学生	25		
◆主な学費	25		
◆平成 30 年度進路状況（本科）	26		
◆平成 30 年度進路状況（専攻科）	27		
学生寮	28		
図書館	29		
技術室	30		
夢工場	31		
グローバル交流推進センター	32		
キャリア教育センター	33		
地域連携推進センター	34		
産業界との連携	35		
教育福祉推進室	36		

高等専門学校の概要

高等専門学校は、昭和30年代の経済成長期に、科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者が必要とされたことを背景として、経済産業界からの強い要請により、昭和37年度に創設されました。

現在では、全国に国立51校、公立3校、私立3校の合計57校の高等専門学校があります。

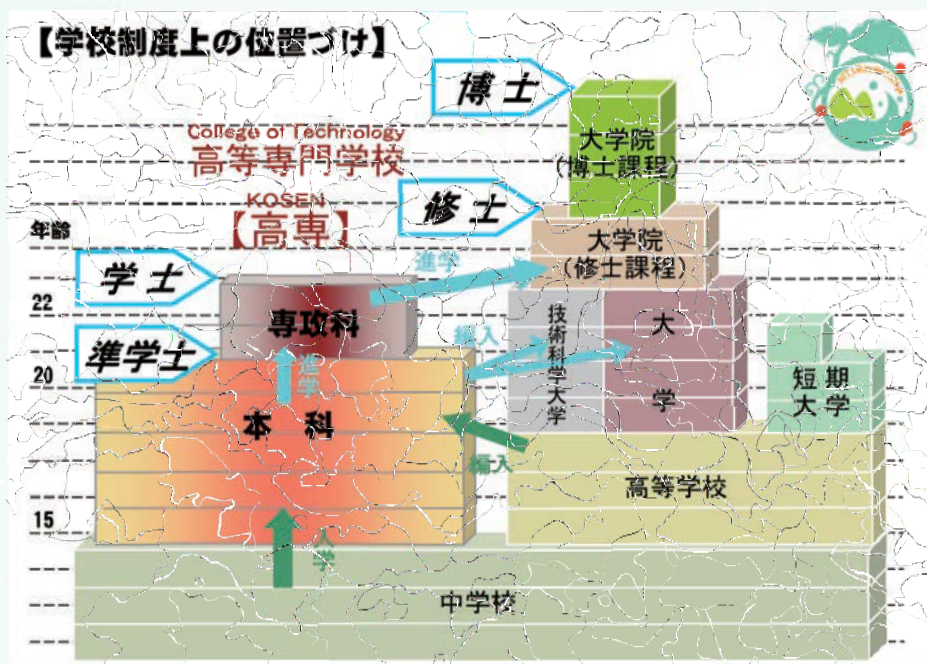
なお、平成16年4月1日より、当時の国立55校は、独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する国立の高等専門学校となっています。

高等専門学校は、中学校卒業生を受け入れ、高等学校3年間と大学の2年間に相当する5年間の一貫教育を行う高等教育機関です。

理論的な基礎とその上に立った実験・実習・演習を重視した実践的な技術教育や少人数クラス編制でのきめ細かな教育による創造性あふれる実践的技術者の養成には、経済産業界から高い評価を得ています。

高等専門学校を卒業すると、「準学士」の称号が与えられます。

また、卒業後の進路は、企業や官公庁等への就職（就職率は例年ほぼ100%）、大学3年次への編入学、専攻科への進学（大学評価・学位授与機構の審査に合格すると「学士」の学位が与えられます。）と多岐にわたっています。



- ・高専卒業生は、大学3年次への編入資格があります。
- ・高専卒業生は高専の専攻科に進学する資格があります。
- ・専攻科では最新の科学知識と技術を更に深めたい学生のため、2年間のより高度な技術者教育を行います。修了して「学士」を得た者は大学院への入学資格があります。
- ・高校卒業生は、高専4年次への編入資格があります。

教育理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する。

目的

教育基本法、学校教育法及び独立行政法人国立高等専門学校機構法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。

教育目標

本科

本科教育目標

- 1・技術者に必要な基礎知識を備え、実践力のある人材を育成する
- 2・創造性を備え、自らの考え方を表現できる人材を育成する
- 3・専門の基礎知識を理解し、自ら学ぶことのできる人材を育成する
- 4・広い視野と倫理観を備えた人材を育成する

<各学科の人材育成上の目的及び教育目標>

【機械システム工学科】

人材育成上の目的

「モノ」の創造・設計・生産に必要な知識・技術をシステムとして統合した教育研究を行い、地球的視点で「モノづくり」を支えることのできる実践力の高い技術者を育成する。

教育目標

- 1・自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
- 2・材料・加工学等の要素技術やCAD・CAM・CAE等のコンピュータを使用した生産技術力
- 3・各種力学、熱・流体工学等の要素技術や機械製品に関する設計技術力
- 4・電気・電子工学、制御・メカトロニクス工学等を用いたシステム化技術力

【情報通信システム工学科】

人材育成上の目的

環境と技術の調和および社会的責任を考え、産業界の発展に寄与すべく、電気・電子工学と情報通信工学の基本技術を習得させ、情報通信機器などの設計・開発・運用のできる実践的・創造的技術者を育成する。

教育目標

- 1・総合科学分野情報通信技術を社会的視点で捉え、多面的に物事を考え、論理的に思考・説明できる能力
- 2・コンピュータのハードウェアとソフトウェアの基礎知識を備え、通信を含む社会の様々な問題をシステムとして解決できる基本技術力
- 3・通信システム設計、通信ネットワーク運用に必要な通信工学と情報セキュリティなどの基本技術力
- 4・情報通信技術の基礎となる電子工学の基礎知識とデジタル及びアナログの集積回路設計の基本技術力

【メディア情報工学科】

人材育成上の目的

数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。

教 育 目 標

- 1・自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力
- 2・コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力
- 3・モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力
- 4・種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力

【生物資源工学科】

人材育成上の目的

生物資源の活用に必要な生物化学工学、環境科学、微生物学、食品系工学、バイオテクノロジーの基礎能力と専門技術を身につけ、環境に配慮し、産業界の要請に応えるべく実践的・創造的技術者を育成する。

教 育 目 標

- 1・生命科学の基礎となる自然・人文科学の基礎知識を活かし論理的に思考できる能力
- 2・地球環境保全の調査・分析に必要な基礎的技術力
- 3・微生物学・食品科学の基礎技術を理解し、産業規模で実践できる技術力
- 4・生物資源を利用した食品・化粧品などの開発に必要な基礎的技術力

専 攻 科

専攻科教育目標

- 1・知識を融合する能力を持った実践的技術者を育成する
- 2・創造力を備え、自ら創造したものを表現できる人材を育成する
- 3・専門知識を基にした応用力を持ち、自ら成長できる人材を育成する
- 4・地球的視野と倫理観を備え社会に貢献できる人材を育成する

三つの方針

本 科

<アドミッションポリシー>

本科のディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める

- (1) 理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- (2) 責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーション力を磨ける人
- (3) 規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の3つの方法で入学者選抜を行う。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望する学科に対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、調査書による評価と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、調査書と学力検査により選抜を行う。

・帰国子女特別選抜

本校への関心があり、日本国以外での教育を受けた志願者に対し、本選抜を実施し、調査書、学力検査、小論文及び面接により選抜を行う。

<カリキュラムポリシー>

本科では、以下の科目を配置し、専門的基礎力、コミュニケーション力、倫理観、自己研鑽力を育成する

- (1) 各専門分野の基礎的な知識を学び、かつそれらを応用する科目：各学科専門科目、総合科学科科目
- (2) 各専門科目の技術を修得する科目：専門学科実験実習科目：卒業研究
- (3) 共同で問題解決にあたりコミュニケーション力を修得する科目：専門学科実験実習科目
- (4) 継続的に学習していく能力を養う科目：卒業研究

<ディプロマポリシー>

本科では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する

- (1) 理工系の基礎的な学力をもとに、各専門分野の基礎的な知識と技術及びそれらを応用する実践力を身につけている
- (2) コミュニケーション力を身に付けており、他者と協調して課題解決に取り組むことができる能力を身につけている
- (3) 技術者としての倫理観を持ち、専門知識を社会のために役立てる能力を身につけている
- (4) 継続的に自己研鑽できる能力を身につけている

機械システム工学科 の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

機械システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) 機械に興味をもち、機械の動く仕組みや構造を理解したいと思う人
- (2) 機械に関する専門知識と技術を習得し、モノづくりによる社会貢献を志している人
- (3) 機械工学を学ぶ上で必要な数学、理科、英語などの基礎的な知識を有し、主体的な学修に意欲がある人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など
[本科教育目標：1] 学科教育目標：1]
- (2) 機械システムの知識を習得する科目：物理と数学を基礎としたいわゆる四力学（材料力学、流体力学、機械力学、熱力学）と、これらを基盤とした基礎専門科目、および制御工学に関連する基礎科目（電気電子工学、メカトロニクス工学、制御工学など）
[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1、3、4]
- (3) 機械システムの技術を修得する科目：実践的な機械システム工学実験、材料加工システム（工作実習）設計製図実習、プログラミング演習などの実技科目
[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2、3、4]
- (4) 課題解決能力を育成する科目：課題の本質を理解し論理的に解決する能力を育成する卒業研究、クラスの他者と協働して課題を解決しようとする能力を育成する創造演習、正しい倫理観を養う技術者倫理など [本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

機械システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする機械工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

- (1) 機械工学分野の知識と技術を活用し、課題解決に向けて行動できる能力
[本科教育目標：1、2、3] 学科教育目標：1～4]
- (2) 課題の本質を理解し、論理的に思考しようとする能力 [本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1、3]
- (3) 他者と協働し、積極的に課題解決に向けて行動できる能力 [本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1～4]
- (4) 倫理観・責任感を持って課題に取り組むことのできる能力 [本科教育目標：1、4] 学科教育目標：1]
- (5) 自身の成長のため、自己研鑽できる能力 [本科教育目標：3、4] 学科教育目標：1～4]

情報通信システム工学科の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

情報通信システム工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) コンピュータ、インターネットなどに興味を持っている人
- (2) 携帯端末などの新しい電子機器や電子工作に興味のある人
- (3) 情報や通信の技術を身につけて、社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意する

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
[本科教育目標：1] 学科教育目標：1]
- (2) 工学の基礎としての数学、物理学、電気・電子工学と情報通信工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する科目を配置する。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1～4]
- (3) 問題や課題に対して、個人またはグループで自主的・計画的に解決に導き、まとめる能力を身につけるため、実験、演習、実践的科目を体系的に配置する。[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1]
- (4) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力と国際的コミュニケーション基礎能力を身につけるため、卒業研究、実験、演習、外国語の科目を配置する。[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1]
- (5) 技術者倫理に関する科目を配置し、グローバルな視点と様々な社会状況に応じた視点から物事を捉えられるよう配慮する。[本科教育目標：4] 学科教育目標：1]
- (6) 実践的・創造的技術者として自立する意識と職業選択を自主的に行える能力を育むよう配慮する。
[本科教育目標：1～4] 学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

情報通信システム工学科は、理工系の基礎学力を基礎とする情報通信システム工学の専門知識と広く人文社会系の素養を身につけ、創造性・探究心豊かな人材を育成する。本校に在籍し、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

- (1) 工学の基礎知識を身につけ、それらを応用する能力を身につけている。
[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1～4]
- (2) 課題に対し、論理的な思考により、個人またはグループで自主的・計画的に物事を進めて解決を導く能力を身につけている。[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1]
- (3) 論理的な思考力や記述力、発表と討議の能力、コミュニケーション基礎能力を身につけている。
[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1]
- (4) 技術者としての倫理観を体得し、グローバルな視点から多面的に物事を捉え先導できる能力を身につけている。[本科教育目標：4] 学科教育目標：1]
- (5) 実践的・創造的技術者として自立する意識、職業選択を自主的に行える能力、及び社会と産業の発展に果敢に取り組む挑戦的な態度を身につけている。[本科教育目標：1～4] 学科教育目標：1～4]

メディア情報工学科の三つの方針

＜アドミッションポリシー＞

メディア情報工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) コンピュータの新しい技術に興味を持っている人
- (2) コンピュータを使って新しいものをつくり出す意欲のある人
- (3) コンピュータを使った技術によって社会に貢献したい人

＜カリキュラムポリシー＞

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を用意している

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
[本科教育目標：1] 学科教育目標：1]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術に関する専門科目群：プログラミング、アルゴリズムとデータ構造、OSとコンパイラ、ディジタル回路、ディジタルシステム設計など。
[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2、3]
- (3) ネットワーク、および情報セキュリティの基礎技術に関する専門科目群：通信工学、情報セキュリティ、コンピュータネットワークなど。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2、3]
- (4) データや情報の加工・表現のための基礎技術に関する専門科目群：メディアコンテンツ基礎、コンピュータグラフィックスなど。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2、3、4]
- (5) 課題解決、知識・理論・アルゴリズムの応用などの総合的能力を育成するための科目群：各種実験、卒業研究など。[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験により行うが、科目等によってはレポート等の評価結果により評価し、60点以上で単位を認定する

＜ディプロマポリシー＞

メディア情報工学科では、数学や自然科学の基礎知識とメディア情報工学の専門的基礎知識をもとにして、産業界の発展に寄与し、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成するため、本校に在籍し、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定する

- (1) 自然・人文科学の基礎知識をもとに論理的思考のできる能力。
[本科教育目標：1] 学科教育目標：1、4]
- (2) コンピュータのソフトウェア、およびハードウェアの基礎技術を理解し、ネットワーク分野、コンテンツ分野に適用できる能力。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2、3]
- (3) モバイル通信、ネットワークとセキュリティの基礎技術を理解し、応用するための基本的な能力。
[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2、3]
- (4) 種々の情報を加工、表現する技術の基礎を理解し、表現できる能力。
[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1、4]
- (5) 課題解決能力、知識・理論の応用力などの総合的能力 [本科教育目標：1、2、3] 学科教育目標：1～4]

生物資源工学科の三つの方針

<アドミッションポリシー>

生物資源工学科では、次のような人材を求める。また、3年次編入学の場合にも以下に準じる

- (1) 生物化学、環境学、微生物学、食品化学に興味があり、探究心の強い人
- (2) 自ら学ぶ意欲を持ち、何にでもチャレンジしようという意思のある人
- (3) バイオテクノロジー関連の技術者や研究者として社会に貢献したい人

<カリキュラムポリシー>

ディプロマポリシーにて掲げた能力を育成するために、以下の科目群を基本科目として用意している

- (1) 自然・人文科学に関する一般科目群：国語、英語、社会科学、数学、自然科学、健康科学など。
[本科教育目標：1] 学科教育目標：1]
- (2) 生物工学の基礎科目：情報技術の基礎、基礎科学、応用物理、応用数学、基礎プログラミング、情報技術の応用、有機化学・物理化学、生物分析化学、生物有機化学、生化学、遺伝子工学、生物工学、微生物学、発酵学、環境学、環境分析学、生物資源利用学Ⅰ、生理学、食品プロセス工学、食品製造学、化学資格基礎、分子生物学、細胞工学、環境保全学、植物生理学、資源リサイクル学、生物資源利用学Ⅱ、タンパク質工学、産業化学など。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2～4]
- (3) 技術習得に関する科目：実践的な生化学実験・遺伝子工学実験・生物工学実験・微生物学実験・環境学実験・生理学実験、化学および化学実験法など。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：2～4]
- (4) 課題解決能力・コミュニケーション力育成科目：沖縄高専セミナー、創造演習、インターンシップ、産業創造セミナー、バイオテクノロジー基礎実験、創造研究、卒業研究など。
[本科教育目標：1～4] 学科教育目標：1～4]

これらの科目群に係る単位修得の認定は主に定期試験によるものとするが、科目によっては、レポート、発表、報告書等で評価し、60点以上で単位を認定する

<ディプロマポリシー>

生物資源工学科では、生物資源工学科に所定の期間在学して、設定された単位を習得し、かつ以下の能力を身につけた者に卒業を認定する

- (1) 亜熱帯域の生物資源に対する生物化学、食品化学、環境学・微生物学に関する基礎知識および専門知識を持ち、生物資源の効用や利用方法を探索できる創造的・実践的な研究・開発の技術力を有する。[本科教育目標：1、3] 学科教育目標：1～4]
- (2) アジア圏と接近している地理的条件を活かして国際交流をはかり、相手の考えを受け入れると共に自分の考えも主張し、到達点を決め、それに向かって協力していけるチームワーク力やコミュニケーション力を有する。[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：1]
- (3) 習得した専門知識を基礎として、仕事をするために必要な情報は何か、それらをどのように組み合わせれば効率的に仕事が行えるかの思考力を有する。[本科教育目標：2、4] 学科教育目標：3、4]
- (4) 困難に遭遇した際に、自分の現状を把握し、どこが問題で、どうしたら解決できるのか、どのような助力を求めればよいのかを明確にする論理的思考とそれらを他者へ説明するコミュニケーション力を有する。[本科教育目標：2、3、4] 学科教育目標：1]
- (5) バイオ、化学、環境、医薬・食品系産業などで活躍できる人材であり、社会ニーズに応えることができ、国際性を備えた技術者としての能力を有する。[本科教育目標：2、3、4] 学科教育目標：3、4]

専攻科

＜アドミッションポリシー＞

専攻科（創造システム工学専攻）では、ディプロマポリシーに基づき、次のような人材を求める

- （１）技術者として地域社会、国際社会の発展に寄与したいと考えている人
- （２）専門分野に関連する基礎知識、基礎技術を身につけている人
- （３）基礎的な、コミュニケーション能力、倫理観を身につけている人
- （４）新技術、新産業の創出に高い意欲を持つ人
- （５）複合的視野をもち実践的応用能力を身につけることに意欲を持つ人

本校の教育理念に基づき、教育目標に沿った人材を育成するため、以下の３つの方法で入学者選抜を行う。

・推薦による選抜

本校への入学意思が固く、志望するコースに対する適性や興味・関心の強い志願者（志望動機が適切である志願者）に対し、門を開くために本選抜を実施する。そのため、小論文と面接（アドミッションポリシーに従う質問）により選抜を行う。

・学力検査による選抜

本校への関心のある志願者に対し、本選抜を実施し、学力検査により選抜を行う。

・社会人特別選抜

本校で行われている研究・教育活動に興味がある志願者に対し、社会人の経験を活かし、専攻科での見聞を培うため、本選抜を実施する。そのため、面接（アドミッションポリシーに従う質問）及び専門分野における口頭試問により選抜を行う。

＜カリキュラムポリシー＞

専攻科（創造システム工学専攻）では、基本科目として以下に対応した科目を設ける

- （１）専門科目の応用力を身につける
- （２）知識を融合・複合する力を身につける
- （３）他者と協働できるコミュニケーション力を身につける
- （４）グローバルな視点で物事を見る力を身につける

＜ディプロマポリシー＞

専攻科（創造システム工学専攻）では、以下のような能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に対し卒業を認定する

- （１）深い専門知識と幅広い関連分野の知識を持ち、これらを活用する能力を有する
- （２）論理的に物事を考え、表現できる能力を有する
- （３）倫理観を持ち、他者と協働できる能力を有する
- （４）グローバルな視点で、多面的に物事を捉える能力を有する

機械工学は、コンピュータ部品のようなミクロな世界からロボット・自動車・航空宇宙まであらゆる産業のものづくりの中心となる重要な学問分野です。これら先端技術の各分野で多くの機械工学技術者が、設計・開発・研究・製造の分野で活躍しています。

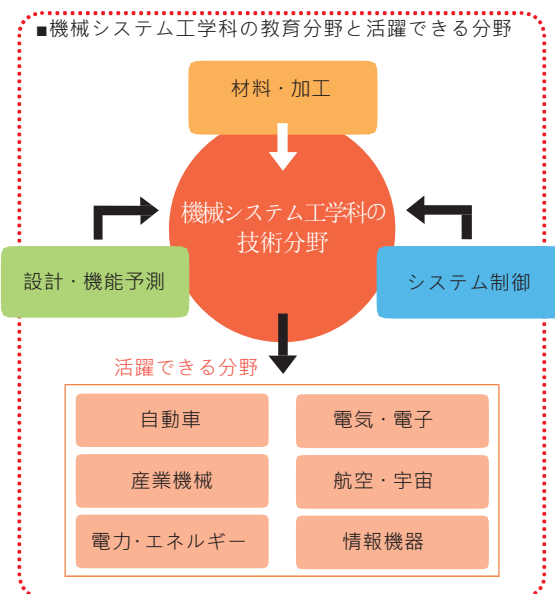
本学科では、ものづくりを支え、創造力の高い実践的技術者の育成を目指しています。本学科の教育課程は、従来からある機械工学の各分野を、材料と加工を中心とした材料システム群、設計と力学を中心とした設計システム群、制御とメカトロニクスを中心としたシステム制御群に再構成し、ものの設計・生産・開発・創造に必要な知識と技術を統合した教育及び機器設計・工作実習・工学実験などの自己学習を重視した教育を行います。



創造演習の授業（2年）



機械システム工学実験Ⅰの授業（4年）



教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	学士（工学）	田口 学	専門分野：航空機整備・航空技術者プログラム担当 1. 航空機整備の学習体系の確立
教授	博士（工学）	武村 史朗	専門分野：ロボティクス、制御工学 1. 海中ロボットの操作に関する研究 2. ロボット技術を利用した地域課題への応用
教授	博士（工学）	比嘉 吉一	専門分野：材料力学、計算固体力学、マルチフィジックス 1. マルチスケール計算固体力学関連分野の研究 2. マルチフィジックス現象に関連した数値シミュレーションに関する研究 3. 金属結晶体内部格子欠陥場の観察と3次元可視化に関する研究
教授	博士（工学）	眞喜志 治	専門分野：熱工学 1. レーザ加工に伴う熱現象に関する研究 2. マイクロチャネル内の気液二相流に関する研究
教授	博士（工学）	眞喜志 隆	専門分野：表面改質、機械材料 1. 金属材料の表面改質に関する研究 2. 表面改質と疲労強度に関する研究
教授	博士（工学）	山城 光	専門分野：熱工学、熱流体計測工学 1. 小規模コージェネレーションシステムの実用化研究 2. バイオマスリアクターの伝熱制御
准教授	博士（工学）	下嶋 賢	専門分野：加工学、計測工学 1. 機械システムの高精度化 2. 機械加工現象の解析
准教授	博士（工学）	津村 卓也	専門分野：溶接・接合、プラズマ処理・レーザ加工・表面処理 1. 摩擦発熱を利用した金属材料の各種固相接合法（FSW、FSSW、FW）に関する研究 2. 新素材・異種材料（金属/金属、セラミックス、プラスチック）の溶接・接合に関する研究 3. 各種熱源（アーク、プラズマ、レーザ）による金属材料の表面処理および切断に関する研究
准教授	博士（工学）	鳥羽 弘康	専門分野：生産管理、生産制御、生産計画 1. 産計画立案支援シミュレーション・生産工程スケジューリングの研究 2. システムシミュレーションによる大規模システムの挙動予測、性能予測の研究
准教授	博士（工学）	政木 清孝	専門分野：材料強度、疲労、フラクトグラフィ、CT 1. 機械構造部材の疲労信頼性評価に関する研究 2. 表面処理による疲労特性向上に関する研究
講師	博士（工学）	安里 健太郎	専門分野：制御工学、ロボスト制御、ソフトコンピューティング 1. 介護支援機器の研究・開発 2. 人工知能とメカトロニクスシステムの融合に関する研究 3. 科学技術教育用教材の開発
講師	博士（工学）	森澤 征一郎	専門分野：数値流体力学、航空力学、データマイニング、多目的最適化 1. 新形態将来旅客機の空力設計に関する研究 2. Roadble Aircraft の概念設計とその実現可能性の検討 3. データ探査や最適化の技術開発とその応用に関する研究

教育課程

授業科目			単位 数	区分	学年別配当								備考		
					1 年		2 年		3 年		4 年			5 年	
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間		単位	期間
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	専門基礎工学	2	講義	2	半									
		プログラミングⅠ	2	講義・演習			2	通							
		応用数学Ⅰ	2	講義						2	半			学修単位	
		応用数学Ⅱ	2	講義							2	半		学修単位	
		応用物理	2	講義				2	通						
		機械力学	3	講義						3	通			学修単位	
		材料システム群	材料加工システムⅠ	3	実習	3	通								
	材料加工システムⅡ	3	実習			3	通								
	材料加工システムⅢ	2	実習					2	半						
	機械工作法	2	講義				2	通							
	機械材料	2	講義				2	通							
	CAD・CAMⅠ	2	演習				2	通							
	CAD・CAMⅡ	2	演習						2	半			学修単位		
	材料科学	2	講義						2	半			学修単位		
	設計システム群	機械製図基礎学	2	講義・実習	2	通									
		機械製図学	2	講義・実習			2	通							
		機械設計学	1	講義・実習			1	半							
		材料力学設計Ⅰ	2	講義・実習			2	通							
		材料力学設計Ⅱ	2	講義・演習					2	通					
		総合構造設計	2	講義・演習						2	通				
		熱工学	3	講義						3	通			学修単位	
		流体工学	2	講義						2	通				
		熱流体機器	2	講義								2	半	学修単位	
	システム制御群	電気・電子工学	2	講義				2	通						
		制御工学	2	講義						2	半			学修単位	
		メカトロニクス工学	3	講義・演習								3	通	学修単位	
		計測工学	2	講義								2	半	学修単位	
	共通群	産業創造セミナー	1	講義・演習				1	半						
		機械システム工学実験Ⅰ	3	実験						3	通				
		機械システム工学実験Ⅱ	3	実験								3	通		
		卒業研究	8	実験								8	通		
	修得単位計		83			12		12		15		24		20	
選択	基礎科目群	プログラミングⅡ	2	講義・演習					2	通					
		化学Ⅱ	2	講義					2	通					
	材料システム群	CAE	2	講義							2	半		学修単位	
	設計システム群	エネルギー変換工学	2	講義							2	半		学修単位	
	システム制御群	生産工学	2	講義							2	半		学修単位	
		システム制御論	2	講義							2	半		学修単位	
		知能制御論	2	講義							2	半		学修単位	
	共通群	創造研究*	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	*各学年毎に単位取得可(最大5単位)。
	プログラム指定科目	整備基礎Ⅰ	2	講義・演習						2	通				航空技術者プログラム履修者に 限る
		整備基礎Ⅱ	2	講義・演習								2	通		航空技術者プログラム履修者に 限る
		航空実習	3	実習								3	通		航空技術者プログラム履修者に 限る
	開設単位計		26			1		1		5		3		16	
	修得単位計		6			0		0		2		0		4	
	特別修得単位合計		109			13		13		20		27		36	
修得単位合計		89			12		12		17		24		24		

※ 特別修得単位として資格試験を単位として認めることができるが、し、卒業要件単位には含まない。詳細は別添付資料を参照。

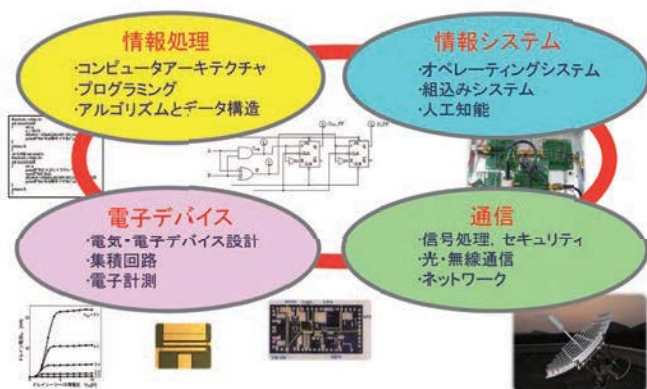
※ 特別修得単位は資格試験を単位として認めることがあるが、卒業要件単位には含まない。詳細は別記。

タブレット PC、インターネット、スマートフォンや携帯端末などの情報通信技術の急速な進歩、普及は社会に大きな影響を与えています。この情報通信技術を支えているのが、コンピュータ、ネットワーク、通信、制御、半導体集積回路などの技術を修得したハードウェア・ソフトウェアに精通した実践的創造的技術者です。

本学科では、情報通信分野で活躍できる実践的創造的技術者の育成を目指し、次の技術分野の基礎を学びます。

- (1)コンピュータアーキテクチャ (2)プログラミング (3)集積回路 (4)信号処理 (5)光・無線通信技術
(6)ネットワーク (7)オペレーティングシステム (8)アルゴリズムとデータ構造 (9)組込みシステム

情報通信分野における実践的創造的技術者の育成 (ハードウェア・ソフトウェアに精通した技術者)



論理回路実験の授業



集積回路実験



オシロスコープ波形測定実験の授業



電波暗室での通信実験 (専攻科)

■ 教員 (現員)

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士 (工学)	兼城 千波	専門分野: 半導体工学、電子工学、弾性波工学 1. 弾性波・半導体結合素子・複合機能素子に関する研究 2. 半導体・圧電センサに関する研究 3. マイクロスプリングブロープの開発研究 (MEMS 技術)
教授	博士 (工学)	高良 秀彦	専門分野: 光通信、光計測 1. 光通信システムに関する研究 2. 光通信品質測定技術、レーザー光安全に関する研究
教授	博士 (工学)	谷藤 正一	専門分野: マイクロ波・ミリ波工学、無線通信工学 1. 高周波 Si-CMOS RF デバイスの研究 2. 3D-SiP 技術を用いた小形・高密度 RF モジュールの研究
教授	博士 (工学)	藤井 知	専門分野: マイクロ波工学、弾性波工学、電子デバイス 1. 電子デバイスの研究 2. マイクロ波反応場の研究 3. ドローンの応用研究
教授	修士 (工学)	與那嶺 尚弘	専門分野: 計算機工学、工学教育、福祉工学 1. 失語症患者および発達障害児向け言語機能訓練支援システムの構築 2. リハビリテーションおよび学習時における集中度の測定に関する研究
准教授	博士 (工学)	神里 志穂子	専門分野: 感性工学、運動計測、データ解析 1. 観察者のスキルと注視情報を考慮した舞踊動作相承システムの構築 2. 動作解析によるスキルの定量化と感性情報の抽出に関する研究
准教授	博士 (工学)	金城 伊智子	専門分野: 意思決定、ファジィ解析、観光情報 1. 意思決定支援システムの構築 2. ファジィ理論を用いた観光情報システムに関する研究
准教授	博士 (情報科学)	中平 勝也	専門分野: 無線通信工学、情報工学 1. 衛星やドローンなどを用いた各種無線通信システムのアクセス制御に関する研究 2. ヘテロジニアス無線ネットワーク環境下における干渉低減方式に関する研究 3. 電波環境やトラフィックの変動に応じた無線リソースの適応制御に関する研究
准教授	博士 (工学)	山田 親稔	専門分野: 計算機工学、論理設計、形式的設計検証 1. システム LSI 設計・機能検証に関する研究 2. LSI 設計教育に関する研究
助教	博士 (工学)	相川 洋平	専門分野: 光通信工学、符号理論 1. 光信号処理を用いた符号化技術に関する研究 2. 光信号処理を用いた符号推定に関する研究 3. 光集積回路設計に関する研究
助教	博士 (工学)	亀濱 博紀	専門分野: 半導体工学、電子集積回路 1. SOI 技術を用いた X 線検出器の開発 2. IoT を活用した高生産性農業システムの開発 3. IoT を活用したセンシングシステムの開発
助教	博士 (工学)	宮城 桂	専門分野: 計算機工学、VLSI 設計 1. 省電力 VLSI の実現法に関する研究 2. ディペンダブル VLSI の実現法に関する研究

■ 教育課程

授業科目			単位 数	区分	学年別配当								備考		
					1 年		2 年		3 年		4 年			5 年	
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間		単位	期間
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習		2	通								
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	離散数学	2	講義								2	半		学修単位
		応用数学	2	講義						2	半				学修単位
		応用物理	2	講義						2	半				学修単位
		情報通信工学実験基礎	2	実験	2	半									
		情報通信工学実験Ⅰ	2	実験		2	通								
		情報通信工学実験Ⅱ	2	実験			2	通							
		情報通信工学実験Ⅲ	2	実験					2	通					
		計算機工学Ⅰ	2	講義	2	通									
		計算機工学Ⅱ	2	講義		2	通								
		ソフトウェア演習	1	演習	1	半									
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義				2	通						
		プログラミング基礎Ⅰ	2	講義	2	通									
		プログラミング基礎Ⅱ	2	講義		2	通								
		応用プログラミングⅠ	4	演習						4	通				学修単位
		応用プログラミングⅡ	4	演習								4	通		学修単位
		データベース	2	講義								2	半		学修単位
		電気回路Ⅰ	2	講義		2	通		2	通					
		電気回路Ⅱ	2	講義				2	通						
		電磁気学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位
	情報通信工学群	ネットワーク概論	2	講義		2	通								
		信号処理	2	講義						2	半				学修単位
		情報理論	2	講義								2	半		学修単位
		通信工学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位
		通信工学Ⅱ	2	講義								2	半		学修単位
	電子・集積回路工学群	半導体工学	1	講義				1	半						
		電子回路Ⅰ	2	講義				2	通						
		電子回路Ⅱ	2	講義				2	通						
		電子回路演習	2	演習						2	通				学修単位
		集積回路工学	4	講義								4	通		学修単位
	計算機ソフトウェア群	計測工学	2	講義				2	通						
		制御工学Ⅰ	2	講義						2	半				学修単位
		オペレーティングシステム	2	講義				2	通						
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義				2	通						
	共通群	卒業研究	8	実験								8	通		
	修得単位計			88		12	12		17	23		24			
選択	基礎科目群	化学Ⅱ	2	講義						2	半				学修単位
		電磁気学Ⅱ	2	講義								2	半		学修単位
	情報通信工学群	情報通信総合演習	2	演習						2	通				学修単位
		電波電送学	2	講義								2	半		学修単位
		通信法規	1	講義								1	半		学修単位
		IT応用	2	講義				2	通						
	計算機ソフトウェア群	人工知能	2	講義						2	半				学修単位
		制御工学Ⅱ	2	講義						2	半				学修単位
		組込システムⅠ	2	講義						2	半				学修単位
		組込システムⅡ	2	講義								2	半		学修単位
		共通群	産業創造セミナー	2	講義・実習				2	通					
	プログラム指定科目	創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
		整備基礎Ⅰ	2	講義・演習						2	通				航空技術者プログラム履修者に限る
		整備基礎Ⅱ	2	講義・演習								2	通		航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	3	実習								3	通		航空技術者プログラム履修者に限る
	開設単位計			33		1	1		5	13		13			
	修得単位計			121		13	13		22	36		37			
	開設単位合計			89		12	12		17	24		24			
修得単位合計															

※ 特別学修単位として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない。(詳細は別記)。

※ 修得単位に限り、学修単位数が60単位を超える場合には担任と相談すること。

物質、エネルギーと並んで、情報は人間活動にとって大切な要素です。私達は情報を音声、文字、画像など色々なメディア（媒体）で表現して人に伝えています。情報処理技術と通信技術の発展と融合のおかげで、情報のデジタル化を通して異なるメディアを統合的に扱うこと、そして、膨大な情報を世界規模で伝達共有することが可能になりました。本学科では、マルチメディア関連産業を支える技術者の育成をはかるため、以下の教育を行います。

- (1) 情報を音声、画像、CG など種々のメディアで表現し、コンピュータを用いてデジタル加工するコンテンツ制作教育
- (2) アルゴリズム、データ構造、プログラミング並びに構成や動作原理などマルチメディア情報を処理するコンピュータシステムに関する教育
- (3) 世界規模で動作するインターネットの仕組みやセキュリティ及びブロードバンドでユビキタスな通信技術に関する教育



メディア情報工学実験Ⅳ



創造演習（学生によるプレゼンテーション）

教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	修士（工学）	伊波 靖	専門分野：情報セキュリティ、音声言語処理 1. サーバをセキュアにするための要塞化に関する設定 2. セキュリティポリシー策定に関するアドバイス 3. 不正アクセス発生時におけるログ解析等のインシデントレスポンス
教授	修士（理学）	正木 忠勝	専門分野：リアルタイムOS、組み込みシステム 1. リアルタイム OS（ μ ITRON）の開発 2. 携帯電話 OS の開発 3. 非接触 IC カード OS 開発 4. SD メモリカード開発
特任教授	博士（情報科学）	姉崎 隆	専門分野：ロボットビジョン、ロボット情報学、画像処理 1. 移動ロボットを用いた、広域監視システムおよび移動作業システムの開発 2. 群移動ロボットを用いた協調作業システムの開発 3. 目視検査自動化のための画像処理システムの開発
准教授	博士（知識科学）	佐藤 尚	専門分野：複雑系、人工生命、進化言語学、進化論的計算 1. 生命・認知・言語・社会などの自立的に発展・進化する「複雑系」に関する構成論的研究 2. 「複雑系」における創発現象の解析 3. ロボットを用いた認知発達・記号創発に関する研究
准教授	博士（工学）	鈴木 大作	専門分野：情報工学、ソフトウェア工学 1. 組み込みソフトウェア技術、開発手法、開発管理 2. ソフトウェア開発におけるプロジェクトマネジメントに関する研究 3. モバイルインターネットアクセス技術に関する研究・開発
准教授	博士（学術）	玉城 龍洋	専門分野：交通工学、社会科学、進化的計算 1. 交通流および交通ネットワークの解析 2. 歩行者行動モデルの開発 3. 最適化問題
准教授	博士（家政学）	西村 篤	専門分野：サウンドスケープデザイン・メディアコンテンツ 1. サウンドスケープデザインにおける住民の参加と主体性に関する理論構築 2. メディアコンテンツ制作とその社会的応用における対話的手法の開発 3. 技術者養成課程における芸術教育の基礎理論構築とその展開
准教授	博士（工学）	バイティガ ザカリ	専門分野：ロボット工学・画像処理・ゼータ関数 1. 複数のセンサーに基づくロボットの開発 2. GPS を用いた移動ロボットに関する研究 3. ロボットビジョンに関する研究 4. 解析関数の複数積分の適用
助教	博士（工学）	金城 篤史	専門分野：情報工学、情報システム、ソフトウェア工学、情報ネットワーク、海洋音響学 1. 情報システムの構築・管理・運用に関する研究 2. 情報工学の農業や水産への応用 3. 複数センサーによるセンシング技術の開発に関する研究
助教	修士（理学）	當間 栄作	専門分野：画像処理、画像解析、ソフトコンピューティング 1. 眼底画像解析システムの開発に関する研究 2. 眼底動画像からの動脈硬化診断に関する研究

教育課程

授業科目		単位 数	区分	学年別配当								備考			
				1 年		2 年		3 年		4 年			5 年		
				単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間		単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	離散数学	2	講義					2	通					
		応用数学	2	講義						2	半				学修単位
		応用物理	2	講義					2	通					
		情報理論	2	講義						2	半				学修単位
		プログラミングⅠ	3	講義	3	通									
		メディア情報工学セミナー	1	講義	1	半									
		コンピュータアーキテクチャ	2	講義					2	通					
	Ⅰ群	メディアコンテンツ基礎	3	講義・演習	3	通									
		メディア情報工学実験Ⅰ	4	実験			4	通							
		コンピュータグラフィックスⅠ	2	講義						2	半				学修単位
		コンピュータグラフィックスⅡ	2	講義							2	半			学修単位
		コンピュータグラフィックスⅢ	2	講義							2	半			学修単位
		メディア情報工学実験Ⅱ	2	実験				2	通						
	Ⅱ群	プログラミングⅡ	4	講義			4	通							
		プログラミングⅢ	2	実験					2	通					
		アルゴリズムとデータ構造	2	講義					2	通					
		メディア情報工学実験Ⅳ	2	実験						2	通				
		オブジェクト指向言語	2	講義						2	半				学修単位
		OSとコンパイラⅠ	2	講義						2	半				学修単位
		OSとコンパイラⅡ	2	講義							2	半			学修単位
		データベース	2	講義							2	半			学修単位
	Ⅲ群	デジタル回路	2	講義			2	通							
		メディア情報工学実験Ⅲ	2	実験					2	通					
		デジタルシステム設計	2	講義						2	半				学修単位
	Ⅳ群	通信工学	2	講義					2	通					
		情報セキュリティⅠ	2	講義								2	半		学修単位
		情報セキュリティⅡ	4	講義								4	半		学修単位
		コンピュータネットワークⅠ	2	講義					2	通					
		コンピュータネットワークⅡ	2	講義							2	半			学修単位
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修得単位計		85			12		12		18		21		22	
選択	Ⅰ～Ⅳ群	メディアコンテンツ応用	2	講義								2	半		学修単位
		組み込みソフトウェア	2	講義								2	半		学修単位
		信号処理とメディア通信	2	講義								2	半		学修単位
	共通群	創造研究 *	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	* 各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	プログラム指定科目	整備基礎Ⅰ	2	講義・演習						2	通				航空技術者プログラム履修者に限る
		整備基礎Ⅱ	2	講義・演習								2	通		航空技術者プログラム履修者に限る
		航空実習	3	実習								3	通		航空技術者プログラム履修者に限る
	開設単位計		18			1		1		1		3		12	
	修得単位計		4			0		0		0		0		4	
	開設単位合計		103			12		12		18		21		26	

※ 特別卒業試験を単位として認めることがある

※ Ⅰ群：メディアコンテンツ群・Ⅱ群：ソフトウェア群・Ⅲ群：ハードウェア群・Ⅳ群：ネットワーク群

※ 特別開設単位を含む資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まれない。(19単位は別表4で定める)

※ Ⅰ群：メディア・コンテンツ群、Ⅱ群：ソフトウェア群、Ⅲ群：ハードウェア群、Ⅳ群：ネットワーク群

沖縄工業高等専門学校の立地条件の特長の一つは、海洋性に恵まれた亜熱帯性気候です。本学科では、これら亜熱帯性資源をはじめとした生物資源の実践的利用ができ、かつ環境に配慮した資源再利用に対応できる人材の育成を目指します。そこで、以下の教育課程により教育・研究を行ないます。

専門分野の授業科目は（１）生物化学工学群、（２）環境・微生物学群、（３）食品化学工学群の３群を軸に編成されています。

- （１）生物化学工学群では、生物・化学系の授業科目により生命科学の基礎を充実します。さらにバイオテクノロジー系の授業科目により生物機能を物質生産に応用する実践的な能力を養います。
- （２）環境・微生物学群では、微生物に関する知識の基礎と応用を学びます。その上で、技術者として環境に対してどのように配慮し、どのように行動するのか、基礎と実践的な手法を習得します。
- （３）食品化学工学群では、食品成分について、その化学的性質・生理活性・分析手法の基礎と応用を学びます。また、食品成分の知識を踏まえて、新規な食品の開発と産業規模の食品製造の実践的な能力を養います。



バイオテクノロジー基礎実験



授業風景（微生物学）



野外実習（生理学実験）



「シマグワ茶」の開発

■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（医学）	池松 真也	専門分野：生化学、がんの生物学、診断薬開発 1. 乳酸菌を応用・利用した商品の開発 2. 新規な成長因子“ミッドカイン”の医薬分野への応用 3. iPS細胞を利用した医療スクリーニング系の開発
教授	博士（学術）	伊東 昌章	専門分野：タンパク質工学、酵素化学 1. 有用酵素の探索、機能解析、および応用に関する研究 2. 昆虫無細胞タンパク質合成系の高度化に関する研究
教授	博士（学術）	平良 淳誠	専門分野：生物有機化学、生物資源化学、酸化ストレスの生命科学 1. 生物資源の探索と機能性機構解明に関する研究 2. 生物資源の薬用食品、薬用化粧品の利用に関する研究
教授	博士（理学）	田中 博	専門分野：食品製造学、酵素利用、微生物利用 1. 亜熱帯資源の食成分プロファイリング 2. 食成分の機能性開発と新規な食素材の開発
教授	博士（農学）	玉城 康智	専門分野：発酵学、微生物学 1. 泡盛に関する研究全般への対応と研究成果の商品化 2. 微生物を利用した有用成分の生産とその利用に関する研究
教授	博士（工学）	濱田 泰輔	専門分野：物理化学、光化学、有機化学 1. 色素増感型太陽電池の研究 2. 超臨界流体抽出に関する研究
特任教授	博士（農学）	三枝 隆裕	専門分野：微生物学、生物学、食品プロセス工学 1. 植物、天然物原料の有効性評価を基に医薬部外品・化粧品・食品素材の開発 2. 微生物培養液からの新素材の開発
准教授	博士（理学）	磯村 尚子	専門分野：分子生態学、繁殖生態学 1. 海洋生物における繁殖様式と集団維持・進化の関係性の解明 2. 海洋生物における遺伝的集団構造の解明
准教授	博士（農学）	三宮 一幸	専門分野：植物分子生物学 1. 有用物質を蓄積させた組換え作物の開発 2. 耐暑性・耐乾性・耐塩性・耐虫性・耐病性を向上させた組換え作物の開発
准教授	博士（理学）	嶽本 あゆみ	専門分野：食品加工学 1. 衝撃波を利用した食品加工技術の開発 2. 衝撃波処理による非加熱殺菌技術の開発
准教授	博士（農学）	田邊 俊朗	専門分野：生物資源利用科学、生物資源化学、食糧化学 1. キチン・キトサンからの生理活性物質生産、関連酵素の新規探索 2. リグノセルロース系バイオマスの前処理技術開発
准教授	博士（理学）	福村 卓也	専門分野：化学工学、反応工学、分離工学 1. 疑似移動層型クロマト反応器を用いたバイオディーゼル燃料の合成 2. 高温高圧水を利用したバイオマス資源からの有用化学物質の合成
助教	博士（理学）	萩 野 航	専門分野：系統分類学、環境学、生態学 1. 東南アジア地域における土壌動物相の多様性解明および環境指標生物の探索 2. ササラダニ類の記載分類学およびDNAバーコーディング

教育課程

授業科目			単位数	区分	学年別配当										備考
					1年		2年		3年		4年		5年		
					単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	単位	期間	
必修	全学共通専門科目	沖縄高専セミナー	2	講義	2	半									
		情報技術の基礎	3	講義	3	通									
		創造演習	2	演習			2	通							
		インターンシップ	3	実習						3	通				
	基礎科目群	基礎科学	2	講義	2	半									
		応用物理	2	講義					2	通					
		応用数学	2	講義						2	半				学修単位
		基礎プログラミング	2	講義	2	通									
		情報技術の応用	2	講義					2	通					
	生物化学工学群	有機化学・物理化学	4	講義・実習演習			4	通							
		生物分析化学	2	講義・実習			2	通							
		生物有機化学	2	講義					2	通					
		生化学	3	講義					3	通					
		生化学実験	1	実験				1	通						
		遺伝子工学	2	講義							2	半			学修単位
		遺伝子工学実験	2	実験							2	半			学修単位
		生物工学	2	講義							2	半			学修単位
		生物工学実験	2	実験							2	半			学修単位
	環境・微生物学群	微生物学	3	講義			3	通							
		微生物学実験	1	実験			1	通							
		発酵学	2	講義・実習					2	通					
		環境学	1	演習					1	半					
		環境学実験	2	実験					2	半					
		環境分析学	2	講義・演習							2	半			学修単位
	食品化学工学群	生物資源利用学Ⅰ	2	講義							2	半			学修単位
		生理学	2	講義							2	半			学修単位
		生理学実験	2	実験							2	半			学修単位
		食品プロセス工学	4	講義									4	通	学修単位
		食品製造学	2	講義・実験									2	通	
	共通群	産業創造セミナー	2	講義・演習							2	半			学修単位
		バイオテクノロジー基礎実験	4	実験	4	通									
		化学および化学実験法	2	実験					2	通					
		化学資格基礎	2	講義					2	通					
		卒業研究	8	実験									8	通	
	修得単位計		81			13		12		19		23		14	
選択	生物化学工学群	分子生物学	2	講義									2	半	学修単位
		細胞工学	2	講義									2	通	
	環境・微生物学群	環境保全学	2	講義							2	半			学修単位
		植物生理学	2	講義							2	半			学修単位
		資源リサイクル学	2	講義									2	半	学修単位
	食品化学工学群	生物資源利用学Ⅱ	2	講義・実験									2	半	学修単位
		タンパク質工学	2	講義									2	通	
	共通群	産業化学	2	講義									2	通	
		創造研究＊	5	演習	1	通	1	通	1	通	1	通	1	通	＊各学年毎に単位取得可（最大5単位）。
	開設単位計		21			1		1		1		5		13	
修得単位計		8			0		0		0		2		6		
開設単位合計		102			14		13		20		28		27		
修得単位合計		89			13		12		19		25		20		

※ 特別学修事項として資格試験を単位として認めることができる。ただし、卒業要件単位には含まない（詳細は別表5定める）。

※ 特別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含まない(詳細は別記)。

総合科学科では、5年一貫の教育課程の中で一般科目を通して社会人として必要な知識や教養を身につけます。また、専門科目と緊密に連携し、社会の急速な変化に対応できる技術者として各学科に共通な学問の基礎を養います。そのため、高校と大学間の授業内容の重複を避け、5年間を通しての効果的なカリキュラムを編成します。国際化社会に対応するため外国語教育を重視し、特に英語では高度な英語力を養うために「読む」「聞く」「書く」「話す」の基礎技能の鍛錬から始まり、グローバル社会に対応できるコミュニケーション能力の伸長を図ります。国語教育においては、論理的に文章を分析し、自らの考えを表現できる力を養うとともに、国際的に活躍する技術者に必要なコミュニケーション能力を育成します。専門科目につながる自然科学や数学の授業は、理論のみを追求するだけでなく、基礎理論を工学的に発展させることのできる応用力も育成します。



国語 I の授業風景



英語の授業風景 1



英語の授業風景 2



数学の授業風景

■ 教員（現員）

職名	学位・資格	氏名	専門分野および研究テーマ
教授	博士（理学）	小池 寿俊	環論
教授	博士（理学）	成 田 誠	一般相対論、非線型偏微分方程式
教授	修士（文学）	星野 恵里子	イギリス・アイルランド文学
准教授	博士（学術）	青木 久美	哲学、心理学
准教授	博士（理学）	木村 和雄	地理学、地形学
准教授	博士（文学）	澤井 万七美	芸能史、演劇学
准教授	博士（文学）	下 郡 剛	日本中世史、近世琉球史、古文書学
准教授	博士（理学）	森田 正亮	理論物理学
准教授	博士（理学）	山 本 寛	複素解析学
准教授	修士（体育学）	和多野 大	スポーツ心理学、スポーツ科学
講師	修士（言語学）	飯島 淑江	応用言語学、英語教授法
講師	博士（理学）	緒方 勇太	微分幾何学
講師	修士（文学）	片山 鮎子	日本語学（中世）
講師	博士（言語学）	崎原 正志	言語学、琉球語学、日本語学
講師	修士（スポーツ学）	島尻 真理子	スポーツ科学、コーチング、ハンドボール
講師	博士（理学）	吉居 啓輔	数学基礎論
講師	修士（カウンセリング学）	吉井 りさ	日英スピーチ・プレゼンテーション教授法
助教	修士（教育学）	カマエマアケイカ	英語学習者の指導

教育課程

授業科目		単位 数	区分	学年別配当					備考
				1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	
				単 位 期 間	単 位 期 間	単 位 期 間	単 位 期 間	単 位 期 間	
必修	国語	国語Ⅰ	2 講義	2 通					
		国語Ⅱ	2 講義		2 通				
		国語Ⅲ	2 講義			2 通			
		文学概論	2 講義				2 半		学修単位
		科学技術文章	2 講義				2 半		学修単位
	英語	English ComprehensionⅠ	2 演習	2 通					
		English ComprehensionⅡ	2 演習		2 通				
		English ComprehensionⅢ	2 演習			2 通			
		English ComprehensionⅣ	2 演習				2 半		学修単位
		English CommunicationⅠ	1 演習	1 半					
		English CommunicationⅡ	1 演習		1 半				
		English SkillsⅠ	2 演習	2 通					
		English SkillsⅡ	2 演習		2 通				
		English SkillsⅢ	2 演習			2 通			
		English SkillsⅣ	2 演習				2 半		学修単位
		English SkillsⅤ	2 演習					2 半	学修単位
		科学技術英語	2 演習					2 半	学修単位
	社会科学	歴史学概論	2 講義		2 通				
		地理学概論	2 講義			2 通			
		地域文化論	2 講義				2 半		学修単位
		技術者倫理	2 講義					2 半	学修単位
		現代社会	1 講義		1 半				
	数学	基礎数学Ⅰ	4 講義	4 通					
		基礎数学Ⅱ	4 講義	4 通					
		微積分Ⅰ	4 講義		4 通				
		微積分Ⅱ	4 講義			4 通			
		線形代数	2 講義		2 通				
		確率・統計	2 講義				2 半		学修単位
	自然科学	物理Ⅰ	2 講義	2 通					
		物理Ⅱ	2 講義		2 通				
		化学	2 講義・演習	2 通					
		生物と環境	2 講義		2 通				生物・環境分野
		地球科学概論	2 講義				2 半		学修単位
	健康科学	スポーツ実技Ⅰ	2 実技	2 通					
		スポーツ実技Ⅱ	2 実技		2 通				
		スポーツ実技Ⅲ	1 実技			1 半			
		健康科学	1 演習・講義			1 半			
	修得単位計		77	21	22	14	14	6	40名1クラス開講 40名1クラス開講
選択	音楽	1 演習	1 半						
	美術	1 演習	1 半						
	中国語	1 講義	1 半						1科目選 40名1クラス開講
	デザイン	1 講義	1 半						40名1クラス開講
	英語演習	1 演習					2 半		
	生命科学	2 講義・実験					2 半		学修単位
	スポーツ実技Ⅳ	2 実技					2 通		
	特許法・法学	2 講義					2 半		学修単位
	日本語Ⅰ*	2 講義・演習				2 通			*外国人留学生科目
	日本語Ⅱ*	2 講義・演習					2 半		*外国人留学生科目・学修単位
	日本事情Ⅰ*	2 講義・演習				2 通			*外国人留学生科目
	日本事情Ⅱ*	2 講義・演習					2 半		*外国人留学生科目・学修単位
	別学修専門として資格試験を単位として認めることがある。ただし、卒業要件単位には含めない。(詳細は別に定める)								
	開設単位計	12		4	0	0	8	0	本校以外の教育施設に於ける学修単位 および資格試験は含まない
	修得単位計	3		1	0	0	2	0	
開設単位合計		89		25	22	14	22	6	
修得単位合計		90		22	22	14	16	6	

沖縄高専の専攻科は、教育理念、教育目的、育成する技術者像にもとづき、それぞれの学位申請区分となる専門分野（機械工学、電気電子工学、情報工学、生物工学）において、深い専門知識を修得し、さらには異なる分野の知識も修得し、融合・複合化の進んでいる産業界において、実践性・創造性を兼ね備えた複合領域にも対応できる幅広い視野を身につけたリーダーシップのある技術者、豊かな人間性と国際性をもつ技術者、課題設定・解決能力を持ち柔軟な思考ができる技術者の育成を目指し、専攻科名を「創造システム工学専攻」としています。本科との科目関連と学位取得専門区分に対応するように、機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コースの4コースから構成されています。この4コースの専門性を融合・複合するための実験科目や国内外の長期インターンシップ等の特徴的なカリキュラムを策定しています。授業で扱う内容には大学院修士課程と同等レベルの高い専門技術教育も含まれており、選択科目として所属コース以外の科目を履修することも可能であり、学生の希望に応じた幅広い分野の学修機会が得られます。また、課題発見から議論、提案、発展、解決のプロセスを学ぶエンジニアリングデザイン教育（Engineering Design Education）を実施して、実際のプロジェクト遂行（PBL教育）を踏まえ、設計や製造に限らず、工程管理、予算管理などを実施し、これらの成果報告を行うことで実践力を養います。

【専攻科の入学定員・収容定員】

専攻名	入学定員	収容定員
創造システム工学専攻	24	48

■ 教育課程

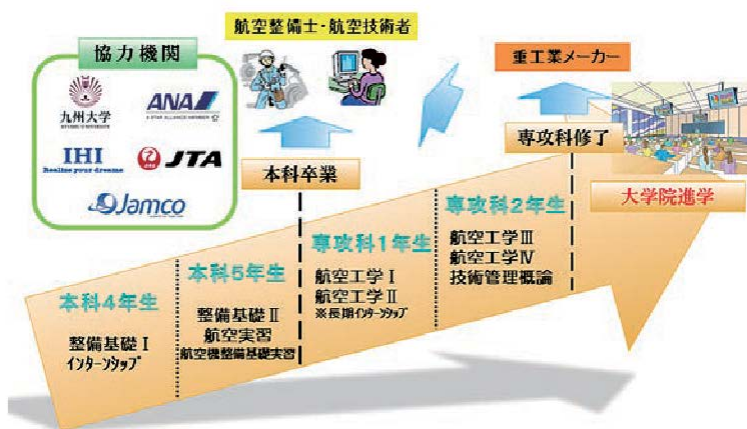
コース	種別	必修・ 選択の 別	科 目 名	単位数	区分	学年別配当単位数				備 考	
						1 年		2 年			
						前期	後期	前期	後期		
全コース	一般科目	必修	実用英語Ⅰ	2	講義	2					
			実用英語Ⅱ	2	講義			2			
	専門共通科目		特別研究ⅠA	3	実験	3					
			特別研究Ⅱ	8	実験			8			
			専攻科実験	4	実験			4			
			創造システム工学実験	4	実験	4					
			修得単位計			23		9			14
	一般科目	選択	日本文化論	2	講義			2		※1年又は2年で修得可	
			哲学・倫理学	2	講義				2		
			日琉交流史	2	講義		2				
			地球科学特論	2	講義		2				
			琉球諸語入門	2	講義	2					
			英詩研究	2	講義		2				
			English Business Communication	2	講義			2			
			スポーツ科学特論	2	講義			2			
			創造システム工学セミナー一般	2	講義	2		2	※学内で開催する教育技術講演会 ※1年又は2年で修得可		
	修得単位計			4			4				
	専門共通科目	選択	特別研究ⅠB	3	実験		3			2年次選択可	3単位以上 修得すること
			長期インターンシップ	4～12	実習		4～12			1か月：4単位 2か月：8単位 3か月：12単位	
			物理学特論	2	講義		2				
			数学通論	2	講義	2					
			応用解析学	2	講義			2			
			応用物理特論	2	講義	2					
			物理化学	2	講義			2			
			バイオテクノロジー	2	講義		2				
			バイオマス利用工学	2	講義		2				
			品質・安全マネジメント特論	2	講義				2		
			経営工学	2	講義			2			
			グローバルインターンシップ	2	実習				2	1年次選択可	
			創造システム工学セミナー専門	2～8	講義		2～8			2単位：30時間 4単位：60時間 6単位：90時間 8単位：120時間以上 ※連携企業・提携校で実施する講義	
			修得単位計			15			15		
修 得 単 位 計			42			42					
開 設 単 位 計			84			84					

種別	コース	必修・ 選択の 別	科 目 名	単位数	区分	学年別配当単位数				備 考
						1 年		2 年		
						前期	後期	前期	後期	
専門科目	機械システム工学コース	選 択	材料科学特論	2	講義	2				
			溶接・接合工学	2	講義			2		
			連続体力学	2	講義	2				
			材料強度学特論	2	講義			2		
			数値シミュレーションⅠ	2	講義		2			
			数値シミュレーションⅡ	2	講義			2		
			生産工学特論	2	講義		2			
			制御系構成論	2	講義		2			
			表面工学	2	講義				2	
			輸送現象論	2	講義	2				
			流体力学特論	2	講義	2				
			熱機関工学	2	講義	2				
			ロボット工学	2	講義				2	
	技術管理概論		2	講義				2		
	電子通信システム工学コース		シミュレーション工学	2	講義		2			
			数理計画法	2	講義		2			
			生体情報工学	2	講義			2		
			数値解析論	2	講義			2		
			信号処理特論	2	講義		2			
			アルゴリズム理論	2	講義				2	
			マイクロ波工学	2	講義	2				
			システムLSI設計工学	2	講義	2				
			光電子デバイス	2	講義	2				
			半導体物性工学	2	講義		2			
			弾性波工学	2	講義			2		
			電子機器工学	2	講義				2	
			知能システム特論	2	講義			2		
	情報工学コース		LSIプロセス工学	2	講義	2				
			情報数学	2	講義	2				
			メディアコンテンツ特論	2	講義		2			
			応用統計学	2	講義	2				
			組込システム特論	2	講義	2				
			データ工学	2	講義		2			
			情報セキュリティ特論	2	講義			2		
			ソフトウェア開発特論	2	講義				2	
			計算機科学特論	2	講義	2				
			ロボティクス	2	講義			2		
			ヒューマンインタフェイス	2	講義			2		
			ネットワーク特論	2	講義		2			光通信システムの名称・配当学年変更
			システム制御工学	2	講義	2				システム制御理論を名称変更
	生物資源工学コース		適応処理特論	2	講義				2	
			神経細胞生物学	2	講義	2				
			資源生物機能形態学	2	講義	2				
			分子生物学Ⅱ	2	講義	2				
			植物工学	2	講義				2	
			無機化学	2	講義		2			
代謝生化学			2	講義			2			
応用微生物学			2	講義	2					
食品衛生工学			2	講義				2		
酵素化学			2	講義	2					
醸造学			2	講義		2				
生物資源の機能性科学			2	講義			2			
酸化ストレスの生命科学			2	講義		2				
タンパク質資源利用学			2	講義			2			
食品化学			2	講義		2				
食品機能学			2	講義			2			
プログラム指定科目			他コースの選択科目							6単位まで認める
		選 択	航空工学Ⅰ	2	講義	2				
	航空工学Ⅱ		2	講義	2					
	航空工学Ⅲ		2	講義			2			
	航空工学Ⅳ		2	講義				2		
修 得 単 位 計			20		20					
開 設 単 位 計			112		66		46			
修 得 単 位 計			62		62					
開 設 単 位 計			196		196					

※ 本校以外の教育施設で修得した単位を認めることがある。

航空技術者プログラム

沖縄県は「沖縄 21 世紀ビジョン」の中で、航空機整備事業（MRO 事業）を中心とした『航空関連産業クラスターの形成』を重点戦略の一つとして掲げています。この MRO 事業を支え、地域に根差す産業を構築するためには、エンジニアとしての素養を有する航空整備士の育成が必要となります。本校の「航空技術者プログラム」は、これに対応できる人材を輩出することを目的として、各専門分野の知識・技術をベースとした航空整備士並びに航空技術者を目指す人材を育成するために開設されました。この人材育成プログラムは、本科 4 年生から専攻科 2 年生までの 4 年間に渡る教育課程となっており、最初の 2 年間で航空整備に関する基礎知識を習得し、後半の 2 年間で航空技術者に必要な基礎知識を習得する教育内容となっています。これまでに協力機関より提供された教材も充実してきており、技術教育の面においても、その効果が期待されます。県内外の複数の協力機関と協働することにより、地域に貢献できる人材の輩出に務めています。



航空技術者プログラムの概略



校舎内に設置されたジェットエンジン（JTA(株)様より寄贈）



コックピット体験の様子



空港機能見学の様子

サイバーセキュリティ人材育成事業

ありとあらゆるものがインターネット（IoT:Internet of Things）に接続され、新たな IT を活用したサービスなどが拡大する中で、高度なサイバーセキュリティ人材の育成が重要となっています。サイバーセキュリティ人材育成事業は、ハードウェアおよびソフトウェアの基礎的な能力および実践力を持つサイバーセキュリティ人材の養成を目的としています。そのために、サイバーセキュリティのカリキュラムの構築と教材開発を行い、授業でサイバーセキュリティを教育することで、「セキュリティに強い高専生」および「飛び抜けたサイバーセキュリティ人材」の育成を推進しています。

学生

学生定員・現員

令和元年5月1日現在

本科

学科	収容定員	現員					
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	計
機械システム工学科	200	41(3)	40(5)	44(3)	30(3)	40(4)	195(18)
情報通信システム工学科	200	43(6)	40(9)	46(9)	44(5)	35(6)	208(35)
メディア情報工学科	200	42(10)	40(6)	55(17)	36(11)	38(8)	211(52)
生物資源工学科	200	35(19)	41(20)	40(14)	35(15)	38(16)	189(84)
計	800	161(38)	161(40)	185(43)	145(34)	151(34)	803(189)

※(注)()は女子で内数・

専攻科

専攻		収容定員	現員		
			第1学年	第2学年	計
専攻科 システム工学	機械システム工学コース	48	6(1)	5(0)	11(1)
	電子通信システム工学コース		12(1)	5(0)	17(1)
	情報工学コース		3(0)	4(1)	7(1)
	生物資源工学コース		9(4)	8(5)	17(9)
計		48	30(6)	22(6)	52(12)

※(注)()は女子で内数・

入学志願者及び入学者

平成31年度入試実績

本科

学科	募集定員	志願者数				入学者数			
		学力	推薦	帰国子女	計	学力	推薦	帰国子女	計
機械システム工学科	40	35(3)	6(0)	0(0)	41(3)	34(3)	6(0)	0(0)	40(3)
情報通信システム工学科	40	40(5)	10(2)	0(0)	50(7)	32(4)	10(2)	0(0)	42(6)
メディア情報工学科	40	32(7)	18(4)	0(0)	50(11)	26(6)	16(4)	0(0)	42(10)
生物資源工学科	40	24(8)	11(10)	0(0)	35(18)	23(8)	11(10)	0(0)	34(18)
計	160	131(23)	45(16)	0(0)	176(39)	115(21)	43(16)	0(0)	158(37)

※(注)()は女子で内数・

専攻科

専攻	募集定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
専攻科 システム工学	24	4(0)	5(0)	9(0)	0(0)	5(0)	5(0)
		2(0)	10(1)	12(1)	2(0)	10(1)	12(1)
		6(0)	1(0)	7(0)	2(0)	1(0)	3(0)
		8(4)	11(5)	19(9)	1(0)	8(4)	9(4)
計	24	20(4)	27(6)	47(10)	5(0)	24(5)	29(5)

※(注)()は女子で内数・

平成30年度入試実績

本科

学科	募集 定員	志願者数					入学者数				
		学力	推薦	専門 実習	帰国 子女	計	学力	推薦	専門 実習	帰国 子女	計
機械システム 工学科	40	29 (2)	14 (3)	／	0 (0)	43 (5)	26 (2)	14 (3)	／	0 (0)	40 (5)
情報通信システム 工学科	40	35 (5)	14 (5)	／	0 (0)	49 (10)	30 (5)	11 (4)	／	0 (0)	41 (9)
メディア情報 工学科	40	27 (4)	10 (2)	23 (3)	2 (0)	62 (9)	21 (2)	13 (3)	7 (1)	1 (0)	42 (6)
生物資源工学科	40	30 (15)	27 (13)	／	0 (0)	57 (28)	24 (12)	17 (8)	／	0 (0)	41 (20)
計	160	121 (26)	65 (23)	23 (3)	2 (0)	211 (52)	101 (21)	55 (18)	7 (1)	1 (0)	164 (40)

※(注)()は女子で内数・

専攻科

専攻	募集定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
専攻科 システム工学	24	14(0)	2(1)	16(1)	3(0)	2(1)	5(1)
		13(0)	1(0)	14(0)	4(0)	1(0)	5(0)
		6(1)	2(1)	8(2)	3(1)	2(1)	5(2)
		4(2)	8(5)	12(7)	0(0)	8(5)	8(5)
計	24	37(3)	13(7)	50(10)	10(1)	13(7)	23(8)

※(注)()は女子で内数・

平成29年度入試実績

本科

学科	募集 定員	志願者数					入学者数				
		学力	推薦	専門 実習	帰国 子女	計	学力	推薦	専門 実習	帰国 子女	計
機械システム 工学科	40	35 (4)	15 (2)		0 (0)	50 (6)	25 (2)	15 (2)		0 (0)	40 (4)
情報通信システム 工学科	40	33 (3)	11 (5)		0 (0)	44 (8)	29 (2)	11 (5)		0 (0)	40 (7)
メディア情報 工学科	40	33 (4)	29 (11)	31 (8)	0 (0)	93 (23)	22 (3)	14 (7)	16 (6)	0 (0)	52 (16)
生物資源工学科	40	35 (9)	14 (7)		0 (0)	49 (16)	26 (7)	14 (7)		0 (0)	40 (14)
計	160	136 (20)	69 (25)	31 (8)	0 (0)	236 (53)	102 (14)	54 (21)	16 (6)	0 (0)	172 (41)

※(注)()は女子で内数・

専攻科

専攻	募集定員	志願者数			入学者数		
		学力	推薦	計	学力	推薦	計
専攻科 システム工学	24	5(0)	4(0)	9(0)	4(0)	4(0)	8(0)
		7(0)	5(2)	12(2)	2(0)	5(2)	7(2)
		5(0)	5(0)	10(0)	3(0)	5(0)	8(0)
		9(6)	3(0)	12(6)	3(2)	3(0)	6(2)
計	24	26(6)	17(2)	43(8)	12(2)	17(2)	29(4)

※(注)()は女子で内数・

地域別入学者数

出身市町村別学生数

令和元年5月1日現在

地区	出身市町村	本科					専攻科		計	地区計
		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第1学年	第2学年		
北部地区	国頭村	1	0	0	0	2	1	0	4	132
	大宜味村	1	0	0	0	0	0	0	1	
	東村	0	0	0	0	0	0	0	0	
	今帰仁村	4	1	2	0	0	0	0	7	
	本部町	1	2	3	5	1	0	0	12	
	名護市	10	19	22	10	13	5	5	84	
	宜野座村	0	0	2	0	2	0	0	4	
	金武町	1	1	1	3	1	0	0	7	
	伊江村	0	0	0	0	0	0	0	0	
	恩納村	1	2	3	0	4	1	0	11	
	伊平屋村	1	0	1	0	0	0	0	2	
	伊是名村	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部地区	うるま市	12	7	12	12	11	2	3	59	302
	読谷村	6	6	3	6	7	0	0	28	
	嘉手納町	1	1	0	2	1	0	0	5	
	沖縄市	24	17	15	18	10	0	0	84	
	北谷町	1	2	4	2	2	0	0	11	
	宜野湾市	4	8	9	7	5	4	1	38	
	北中城村	2	1	0	1	0	0	1	5	
	中城村	2	0	0	0	2	0	0	4	
	西原町	15	14	13	13	7	2	4	68	
那覇・浦添地区	浦添市	10	6	6	16	15	3	0	56	216
	那覇市	26	35	42	24	25	6	2	160	
南部地区	豊見城市	3	6	11	3	9	0	0	32	139
	糸満市	8	10	10	5	4	2	2	41	
	八重瀬町	3	5	2	2	0	0	1	13	
	南城市	2	6	3	3	8	1	0	23	
	与那原町	1	2	1	0	3	1	0	8	
	南風原町	1	0	5	3	6	0	1	16	
	久米島町	0	0	2	0	0	0	0	2	
	北大東村	0	0	0	1	0	0	0	1	
	南大東村	0	0	0	0	0	0	1	1	
	渡嘉敷村	0	0	0	0	0	0	0	0	
	座間味村	0	0	0	0	0	1	1	2	
宮古地区	宮古島市	5	3	3	2	2	0	0	15	15
八重山地区	石垣市	4	2	3	1	3	0	0	13	17
	竹富町	0	0	2	0	2	0	0	4	
	与那国町	0	0	0	0	0	0	0	0	
県内計		150	156	180	139	145	29	22	821	
県外	宮城県	0	0	1	0	0	0	0	1	
	茨城県	1	0	0	0	0	0	0	1	
	埼玉県	3	1	0	0	0	0	0	4	
	千葉県	0	1	0	1	0	0	0	2	
	東京都	0	1	0	0	1	0	0	2	
	神奈川県	0	0	1	0	0	0	0	1	
	奈良県	0	1	0	0	0	0	0	1	
	和歌山県	0	0	0	0	0	1	0	1	
	福岡県	0	1	1	2	0	0	0	4	
	熊本県	0	0	0	0	1	0	0	1	
	鹿児島県	3	0	0	1	0	0	0	4	
	佐賀県	3	0	0	0	0	0	0	3	
県外計		10	5	3	4	2	1	0	25	
外国	ラオス人民民主共和国	0	0	0	0	1	0	0	1	
	モンゴル国	0	0	2	1	2	0	0	5	
	マレーシア	0	0	0	0	1	0	0	1	
	カンボジア王国	0	0	0	1	0	0	0	1	
	台湾	1	0	0	0	0	0	0	1	
国外計		1	0	2	2	4	0	0	9	
合計		161	161	185	145	151	30	22	855	

高等学校等就学支援金制度

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

※就学支援金は学生本人（保護者等）が直接受け取るものではありません。学校が学生本人に代わって国から就学支援金を受け取り、授業料に充当するものです。授業料と就学支援金との差額分については学生本人に負担していただくことになります。

【支給対象者】

本科1年生～3年生で、市町村民税所得割額と都道府県民税所得割額の合計額が50万7,000円未満の世帯が就学支援金支給の対象となり、学校に申請を行うことにより、下表に記載の金額が支給されます。

但し、①本校入学前に高等学校等を卒業した学生、②留年、休学等により在学期間が通算して36月を超える学生は対象となりません。

就学支援金支給額は下表のとおりとなります。

保護者全員の市町村民税所得割額及び 都道府県民税所得割額の合算額	就学支援金支給額 (月額)	授業料負担額 (月額)
50万7,000円以上～	0円(支給なし)	19,550円
25万7,500円以上～50万7,000円未満	9,900円(一律支給のみ)	9,650円
8万5,500円以上～25万7,500円未満	14,850円(加算額4,950円)	4,700円
0円(非課税)～8万5,500円未満	19,550円(加算額9,650円)	0円

授業料免除制度

本校では、経済的な理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる学生に対し、本校の予算の範囲内で授業料の全額または半額を免除する制度があります。前期および後期の学期毎に申請を受け付け、家計の困窮度により免除許可者を決定します。なお、本科1年生～3年生は「高等学校等就学支援金制度」により授業料の支援がありますので、原則として授業料免除制度の対象外となります。

平成30年度実績

区分		本科		専攻科		計
		4年	5年	1年	2年	
在学者数		157	156	22	33	368
前期	全額免除	18	23	5	5	51
	半額免除	4	7	2	1	14
	計	22	30	7	6	65
	制度利用者の割合	14.0%	19.2%	31.8%	18.2%	17.7%
後期	全額免除	24	22	4	3	53
	半額免除	4	6	1	1	12
	計	28	28	5	4	65
	制度利用者の割合	17.8%	17.9%	22.7%	12.1%	17.7%

奨学生

日本学生支援機構奨学金第一種及び第二種奨学金貸与月額表

学年		第一種奨学金	
		自宅通学	自宅外通学
本科	1年	21,000円又は10,000円	22,500円又は10,000円
	2年		
	3年	45,000円・30,000円・ (20,000円)から選択	51,000円・(40,000円)・ 30,000円・(20,000円) から選択
	4年		
	5年		
専攻科	1年	45,000円・30,000円・ (20,000円)から選択	51,000円・(40,000円)・ 30,000円・(20,000円) から選択
	2年		

※()は平成30年度入学者より選択可能。

学年		第二種奨学金	
		自宅通学	自宅外通学
本科	4年	20,000円から120,000円までの金額の中から 1万円単位で選択可能	
	5年		
専攻科	1年		
	2年		

平成30年度奨学金受給実績

区分			本科					専攻科		計
			1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	
日本学生支援機構	第一種奨学金	自宅通学	0	0	4	9	14	2	1	30
		自宅外通学	24	41	28	45	30	3	6	177
	第二種奨学金					1	2	1	2	6
	給付型奨学金					4	0	0	0	4
	その他の機関		4	5	4	2	3	2	3	23
計			28	46	36	61	49	8	12	240
在学者数			165	179	156	157	156	22	33	868
在学者数に占める割合			17%	26%	23%	39%	31%	36%	36%	28%

※その他の機関の奨学金は、貸与・給付(一度限りの支給含む)を合わせて記載しています。

主な学費

就学費用

入学科		授業料		日本スポーツ振興センター共済掛金	
84,600 円		年	234,600 円	年	770 円

平成30年度進路状況（本科）

令和元年5月1日現在

区分	学科				合計
	機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
卒業者数	35	36	40	38	149
就職者数	16	21	31	15	83
進学者数	17	15	9	18	59

令和元年5月1日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
就職状況	就職希望者数	16	21	31	18	86
	就職者数	16	21	31	15	83
	就職率（就職者数/就職希望者数）	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%	96.5%
	就職先企業名※1（県内）		MRO Japan株式会社	沖電グローバルシステムズ株式会社	株式会社EM研究機構	
	県内に本社のある企業	計 0 名	計 1 名	計 1 名	計 1 名	県内計 3 名
		就職者に占める割合 0%	就職者に占める割合 5%	就職者に占める割合 3%	就職者に占める割合 7%	就職者に占める割合 4%
	就職先企業名※1（県外）	小島プレス工業株式会社 東空販売株式会社 株式会社 NAITO ANAシステムズ株式会社 村田機械株式会社 ソニーエンジニアリング株式会社 株式会社ベアック JXエンジニアリング株式会社 栗田鑿岩機株式会社 スチールプランテック株式会社 東京計装株式会社 大阪ガス株式会社 株式会社ダイハツ ビジネスサポート センター 新日鐵住金株式会社 JXTGエネルギー株式会社 株式会社IHI	株式会社コンピュータサービス NIT東日本グループ(3) 株式会社東芝インフラシステムズ(3) 株式会社サマック(3) 株式会社アライアス 富士電機株式会社 ANAスカイビルサービス株式会社 ANAシステムズ株式会社 東芝マイクロエレクトロニクス株式会社 NITデータファイン(2) 京セラ株式会社(2) 株式会社出通マーケティング 株式会社NITフィロテクノ 株式会社ディアスクエア 株式会社ALエンジニアリング 出光興産株式会社 東芝エネルギーシステムズ株式会社	ANAシステムズ株式会社 株式会社エヌ・ティ・エム(2) 株式会社エフエーセキュリティ 株式会社NITデータロティオ 株式会社アルク アスクル株式会社(2) 株式会社ビズネット セタ株式会社 コンピュータマイン(3) 株式会社エム・コミュニケーションズ 株式会社ネオジャパン(2) 株式会社情報エンジニアリング(2) 株式会社ヴィッツ TDCソフト株式会社 株式会社日立ハイシステム 21 株式会社DMM.comラボ株式会社 NITファンフィア(3) ノーエンジニアリング株式会社 株式会社KOWエデュケーションズ 株式会社本村情報技術株式会社 株式会社スターシステム 株式会社メンバーズキャッツ株式会社 NITデータファイン株式会社 株式会社ソフトウェア・サイエンス Sansan 株式会社 株式会社エム・ソフト	花王株式会社(3) 旭化成株式会社 株式会社ノエビア 株式会社資生堂(2) 第一三共プロファーマ株式会社 株式会社エンパイオ・エンジニアリング ヤフー株式会社 株式会社ナリス化粧品 キリンビレックス株式会社 サトースプリング株式会社 花王コスメプロダクツ小田原株式会社	
		計 16 名	計 20 名	計 30 名	計 14 名	県外計 80 名
		就職者に占める割合 100%	就職者に占める割合 95%	就職者に占める割合 97%	就職者に占める割合 93%	就職者に占める割合 96%
進学状況	進学希望者数	18	15	9	19	61
	進学者数	17	15	9	18	59
	専攻科	5	12	3	9	29
	3 年次編入等	11	3	5	8	27
	その他	1	0	1	1	3
	進学決定率（進学者数/進学希望者数）	94.4%	100.0%	100.0%	94.7%	96.7%
	進学先大学	長岡技術科学大学(3) 豊橋技術科学大学(4) 千葉大学 富山大学 和歌山大学 琉球大学	豊橋技術科学大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(12)	九州工業大学 東京農工大学 電気通信大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(3) 沖縄工業高等専門学校 校研究	長岡技術科学大学 東京工業大学 帯広畜産大学 新潟大学 岡山大学 東京農工大学 長崎大学 崇城大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(9) 沖縄ラフ&ピース専門学校	
	進学先専門学校	沖縄工業高等専門学校	沖縄工業高等専門学校	沖縄工業高等専門学校	沖縄工業高等専門学校	
	進学先大学・専門学校	長岡技術科学大学(3) 豊橋技術科学大学(4) 千葉大学 富山大学 和歌山大学 琉球大学	豊橋技術科学大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(12)	九州工業大学 東京農工大学 電気通信大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(3) 沖縄工業高等専門学校 校研究	長岡技術科学大学 東京工業大学 帯広畜産大学 新潟大学 岡山大学 東京農工大学 長崎大学 崇城大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(9) 沖縄ラフ&ピース専門学校	
	進学先大学・専門学校	長岡技術科学大学(3) 豊橋技術科学大学(4) 千葉大学 富山大学 和歌山大学 琉球大学	豊橋技術科学大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(12)	九州工業大学 東京農工大学 電気通信大学 琉球大学 沖縄国際大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(3) 沖縄工業高等専門学校 校研究	長岡技術科学大学 東京工業大学 帯広畜産大学 新潟大学 岡山大学 東京農工大学 長崎大学 崇城大学 沖縄工業高等専門学校 学校専攻科(9) 沖縄ラフ&ピース専門学校	

※1 同一企業に複数の学生が就職した場合は同一の企業として記載する。
 ※2 機械システム工学科及び、生物資源工学科の専攻科(5) 沖縄工業高等専門学校 校研究
 ※3 卒業者数には留学生を含む。

平成30年度進路状況 (専攻科)

令和元年5月1日現在

区分	コース				合計
	機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
修了者数	5	8	8	8	29
就職者数	5	5	7	6	23
進学者数	0	3	1	2	6

令和元年5月1日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
就職状況	就職希望者数	5	5	7	6	23
	就職者数	5	5	7	6	23
	就職率 (就職者数/就職希望者数)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	就職先企業名※1 (県内) 県内に本社のある企業	沖縄電力株式会社	日本トランスオーシャン航空株式会社	株式会社ICNソリューション	株式会社りゅうせき オリオンビール株式会社	
		計 1 名	計 1 名	計 1 名	計 2 名	県内計 5 名
		就職者に占める割合20%	就職者に占める割合20%	就職者に占める割合14%	就職者に占める割合33%	就職者に占める割合22%
	就職先企業名※1 (県外) 県外に本社のある企業	NOK 株式会社 武蔵エンジニアリング株式会社 JX エンジニアリング株式会社 日本電子株式会社	株式会社ジャムコ ボッシュ株式会社 アドバンスドプランニング株式会社 ANA ベースカタル株式会社	ヤフー株式会社 株式会社ヴィッツ 株式会社ラック ニフティ株式会社 株式会社ハイマックス 株式会社東邦システムサイエンス	テルモ株式会社 花王株式会社 花王コスメプロダクツ 小田原株式会社 株式会社ナリス化粧品	
		計 4 名	計 4 名	計 6 名	計 4 名	県外計 18 名
		就職者に占める割合80%	就職者に占める割合80%	就職者に占める割合86%	就職者に占める割合67%	就職者に占める割合78%
進学状況	進学希望者数	0	3	1	2	6
	進学者数	0	3	1	2	6
	進路	大学院等	3	1	2	6
		その他	0	0	0	0
	進学決定率 (進学者数/進学希望者数)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	進学先※1		奈良先端科学技術大学院大学 熊本大学大学院 電気通信大学大学院	奈良先端科学技術大学院大学	九州大学大学院 名古屋大学大学院	

※1 同一企業に複数名の学生が就職した場合、または同一の大学等に複数名の学生が進学した場合、その人数を () 内に示しています。

学生寮

沖縄高専の学生寮は、1年生と2年生は優先的に入寮することが出来ます。3年生以上で引き続き入寮を希望する場合には、学生寮委員会で審議し、入寮の可否を通知します。

本校の学生寮は単に通学の便宜を図るためだけではなく、学習の充実を図り、基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的とした教育施設としての役割も果たしています。

カードキー、防犯カメラ、赤外線センサーなどの警備設備のほか、当直教職員2名と守衛が寮内の安全を保持しています。

学生寮経費

(令和元年度)

月額寄宿料	800円
日額給食費(3食)	1,060円

居室数

男子寮	女子寮	合計
412室	142室	554室

1 居室は全て1人部屋です。

2 このほか寮管理費(光熱費、消耗品費等)がかかります。



日課表

事項	平日	休日
洗面開始	6:30 ~	6:30 ~
起床	7:00	7:00
朝点呼	7:10	7:10
朝食	7:30 ~ 8:20	7:30 ~ 8:20
登校	7:25 ~ 8:30	
施錠	8:30 ~ 14:30	
昼食	12:00 ~ 13:00	12:00 ~ 13:00
夕食	18:00 ~ 20:00	18:00 ~ 20:00
入浴	17:00 ~ 20:30	17:00 ~ 20:30
門限	20:10	20:10
点呼	20:40	20:40
清掃	20:40 ~ 21:00	20:40 ~ 21:00
学習時間帯	21:00 ~ 22:00	
静粛時間帯	22:00 ~ 23:00	21:00 ~ 23:00
消灯準備時間帯	23:00 ~ 23:30	23:00 ~ 23:30
完全消灯	23:30	23:30

入寮者数

令和元年5月1日現在

		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	合計		
本科	1 年	41 (3)	43 (6)	42 (10)	34 (18)	160 (37)	(551 141)	554 (142)
	2 年	37 (4)	39 (9)	39 (6)	39 (19)	154 (38)		
	3 年	33 (2)	30 (9)	34 (13)	20 (8)	117 (32)		
	4 年	22 (3)	21 (2)	19 (8)	20 (11)	82 (24)		
	5 年	16 (3)	9 (2)	6 (1)	7 (4)	38 (10)		
専攻科	専攻科 1 年	2 (0)				3 (1)		
	専攻科 2 年	1 (1)						

※()はうち女子寮生

レストラン

晴れた日にはきれいな太平洋の眺めも楽しめるレストランは、全380席の寮生食堂のほか、教職員や寮生以外の学生のための一般食堂があります。ほかに学生会室、和室があり、学生が集まる憩いの場所になっています。



図書館

図書館は、本校の教育・研究を支援する拠点の一つとして機能しています。

館内には情報学、工学、自然科学等の専門書を中心として、学術雑誌、文庫本、DVD や CD-ROM などの視聴覚資料、英語多読資料、全国の高等専門学校関連資料などを所蔵しており、蔵書目録はインターネットから検索することができます。その他、県内や全国の高専・大学図書館等の高等教育機関と相互協力による資料提供も可能です(ただし、これを利用できるのは本校所属の学生、教職員等に限定しています)。

また、一般の方へも開放しており、資料の閲覧だけでなく「利用証」の発行を受ければ貸出も可能です。

開館時間 (一般の方も利用可能です)

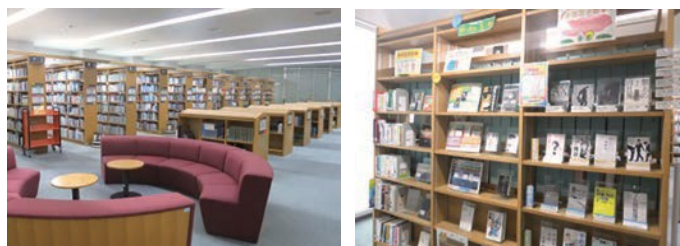
通常期	月～金曜日 8 時 40 分～20 時	土曜日 9 時～17 時
休業期・臨時休業日	月～金曜日 8 時 40 分～17 時	土曜日 休館

休館日

日曜・祝日
年末年始
休業期の土曜

施設

開架閲覧室 740 m² (108 席 うち個人ブース席 18 席)
AV ブース 4 席
メディア・ホール
入館制御システム
自動貸出機
ブックディテクションシステム
開架書庫
コンピュータサーバー室
蔵書検索用ノートブック型パソコン



館内風景

蔵書数

【図書】(冊) 括弧内は内数で外国語図書

令和元年 5 月 1 日現在

総記	哲学・心理学	歴史・地理	社会科学	自然科学	技術・工学	産業	芸術・体育	言語	文学	計
5,024 (312)	2,388 (89)	2,813 (88)	7,921 (307)	13,764 (1,157)	11,285 (915)	1,654 (32)	4,433 (1,039)	18,638 (16,524)	7,963 (46)	75,883 (20,509)

【購入雑誌】67 タイトル (うち和雑誌 66, 洋雑誌 1)

【新聞】7 紙

【視聴覚資料】1,807 点

利用状況

年度	開館日数	入館者数	貸出冊数				1日当たりの数値	
			総数	(学 生)	(教職員)	(学外利用者)	(入館者数)	(貸出冊数)
平成30年度	271	72,721	21,455	18,510	2,362	583	268.3	79.2

情報検索データベース・電子ジャーナル

JDreamIII 科学技術全般文献データベース

CiNii Articles 国内論文情報データベース

MathSciNet 米国数学会の数学文献データベース

ScienceDirect エルゼビア社の電子ジャーナル

沖縄タイムス記事データベース (新聞記事データベース)

琉球新報記事データベース (新聞記事データベース)

ジャパン・ナレッジ 事典・辞書データベース

技術室

技術室は、実践的な教育・研究および地域貢献活動に対して、専門的な知識や技術を活かして効果的・効率的に推進するための組織です。本室には 10 名の技術職員が在籍し、応用加工分析系と情報通信制御系の技術分野を中心に担当しています。実験・実習および卒業研究においては、専門的な知識・技術に基づいた技術支援・指導を行うとともに、共同研究などにおける装置開発・機器分析に加えて、出前授業・公開講座などの地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。



実習における技術指導



出前授業



公開講座



共同研究における分析評価

職 名		氏 名	技 術 分 野
技 術 長		屋良 朝康	熱交換器設計、廃熱回収、空調機器の性能評価
副 技 術 長 技 術 専 門 員		蔵屋 英介	機器分析の指導、実験装置の開発、天然物・食品の機能性評価
技 術 専 門 員		釣 健 孝	情報処理、ネットワーク、画像計測
応用加工分析系	技術主査技術専門職員	具 志 孝	汎用工作機械、CAD、CAM、NC 工作機械
	技術専門職員	渡邊 謙太	バイオイメージングを活かした教育・評価、在来生物の利用と基礎研究
	技術専門職員	大嶺 幸正	NC 工作機械、汎用工作機械、エンジン動力の性能評価
	技 術 職 員	儀保 健太	材料の熱的解析、実験装置開発
情報通信制御系	技術主査技術専門職員	比 嘉 修	電気回路、電子回路、電気設備、パルスパワー
	技術専門職員	新田 保敏	情報処理、ネットワーク
	技 術 職 員	白石 博伸	電気回路、電子回路

夢工場

沖縄高専に入学した学生は、想像力にあふれものづくりに強い関心があり、その希望を叶える場として夢工場があります。学生の安全のため常に、技術職員が常駐しわからない事、やってみたい事があればいつでも技術相談ができる体制です。また夢工場の設備は、沖縄高専の学生なら自由に使用する事ができ、工具の貸出も行っています。使い方のわからない工具や工作機械の使用方法も教えています。さらに難しい機械加工の場合は、一緒にものづくりの手助けを行っています。

夢工場は 機械システム工学科の実習の場でもあり基礎的なものづくりに関連する実習を行っています。他にも、航空整備基礎実習、卒業研究、創造研究など夢工場では様々な活動が行える環境が整っております。また夢工場の隣には、ロボコンの部室があり、ロボットコンテストに向けたロボット製作のバックアップも行っています。

施設と設備

■ CNC 加工室

- ・ 5 軸制御マシニングセンター
- ・ ワイヤ放電加工機
- ・ CNC 旋盤

■ 運 転 ・ 解 析 室

- ・ 粗さ測定器
- ・ 工具顕微鏡

■ 熱 機 関 性 能 試 験 室

■ 汎 用 工 作 機 械 工 場

- ・ 旋盤
- ・ 立フライス盤
- ・ 複合フライス盤
- ・ NC フライス盤
- ・ 平面研削盤
- ・ NC 円筒研削盤
- ・ ラジアルボール盤
- ・ 帯鋸盤
- ・ 高周波溶解炉
- ・ TIG、MAG アーク溶接システム



ロボコン



航空整備基礎実習

グローバル交流推進センター

近年、日本の学校教育においてグローバル人材育成が強く求められています。グローバル交流推進センターは、国際的な舞台で活躍できるグローバル人材を育成するために、沖縄高専の教育・研究の国際化と学生・教職員の国際交流を推進する組織です。その為に、国際交流を推進する教育・研究体制の整備の支援と留学生・研修生の積極的な受け入れ、本校学生の海外派遣の双方向交流を推進しています。



King Mongkut's University of Technology North Bangkok (タイ) で行われた 2 週間のタイプログラムに、本校から 5 名の学生が参加した。このプログラムでは、タイの学生が本校学生をサポートし、講義や実習、休日の自由行動など行動を共にし交流を深めた。(2018 年 9 月)



本校にて国際交流プログラム (Okinawa Kosen Camp) が開催され、Nanyang Polytechnic (シンガポール) から 26 名の学生が参加した。本校からも述べ 30 名の学生がこのプログラムに参加し、共に沖縄高専の特別授業を受講したり、美ら海水族館などを訪問して積極的な交流を深めた。(2019 年 3 月)

国際交流実績

【派遣】

平成30年度 留学、海外交流プログラム等による派遣

プログラム名称等	派遣国	派遣先	人数	
私費留学	カナダ、オーストラリア	(語学学校等)	2	2018年4月1日～2019年3月31日
海外インターンシップ(北九州高専主催)	タイ	MAXIS タイランド	1	2018年8月20日～2018年8月31日
沖縄県国際性に富む人材育成留学事業	アメリカ	ミシガン州、アイダホ州	2	2018年8月21日～2019年6月3日
トビタテ! 留学JAPAN(高校生コース)	カナダ	語学学校	1	2018年8月24日～2018年9月18日
トビタテ! 留学JAPAN(高校生コース)	アメリカ	語学学校	1	2018年8月25日～2018年9月16日
ベナンプロジェクト体験型研修	マレーシア	豊橋技科大学ベナン校他	1	2018年8月26日～2018年9月9日
トビタテ! 留学JAPAN(大学生コース) 海外インターンシップ	ベトナム	FPT Software	1	2018年8月26日～2018年9月26日
タイ・バンコクにおける学生交流II	タイ	キングモンクット大学ノースバンコク校	5	2018年9月1日～2018年9月15日
ISTS2018	マレーシア	豊橋技科大学ベナン校他	1	2018年10月7日～2018年10月13日
研修旅行(情報通信システム工学科3年生)	台湾	台北科技大学他	41	2018年12月4日～2018年12月8日
合計			56	

【受入】

平成30年度短期留学・海外交流プログラム受入状況

プログラム等	出身国	人数	研修期間
国費外国人留学生	ラオス	1	2016年4月1日～2019年3月31日
	モンゴル	1	2016年4月1日～2019年3月31日
	ラオス	1	2017年4月1日～2020年3月31日
	カンボジア	1	2018年4月1日～2021年3月31日
政府派遣留学生	モンゴル	1	2016年4月1日～2020年3月31日
	マレーシア	1	2017年4月1日～2020年3月31日
	モンゴル	1	2017年4月1日～2020年3月31日
	モンゴル	1	2018年4月1日～2021年3月31日
外国人研修生	タイ	7	2018年6月1日～2018年6月30日
	タイ	2	2018年6月1日～2018年7月31日
	タイ	1	2018年6月1日～2018年8月17日
	タイ	2	2018年6月13日～2018年8月4日
	タイ	1	2018年9月16日～2018年11月17日
JST さくらサイエンスプログラム	台湾	10	2018年10月3日～2018年10月12日
Okinawa Kosen Camp	シンガポール	26	2019年3月11日～2019年3月15日

受入海外留学生（合計）： 8

受入海外研修生（合計）： 49

キャリア教育センター

キャリア教育センターは、本校学生のキャリア形成と学生及び卒業生の進学・就職活動を支援することを目的としています。具体的には、単に進路決定のための情報提供や支援のみならず、学生が自己分析・自己理解を進め、インターンシップなどを通して社会やさまざまな職業を理解していくことで、「自分の進路を自分で決定できる能力」を養う教育を行います。

また、キャリア教育センターでは、本校卒業生や保護者からの相談も受け付けております。



キャリア教育センター室内の様子

専任コーディネーターによる平成30年度の年間支援実績（就職相談者）来談者54名（うち内定者53名）



ビジネスセミナーの様子

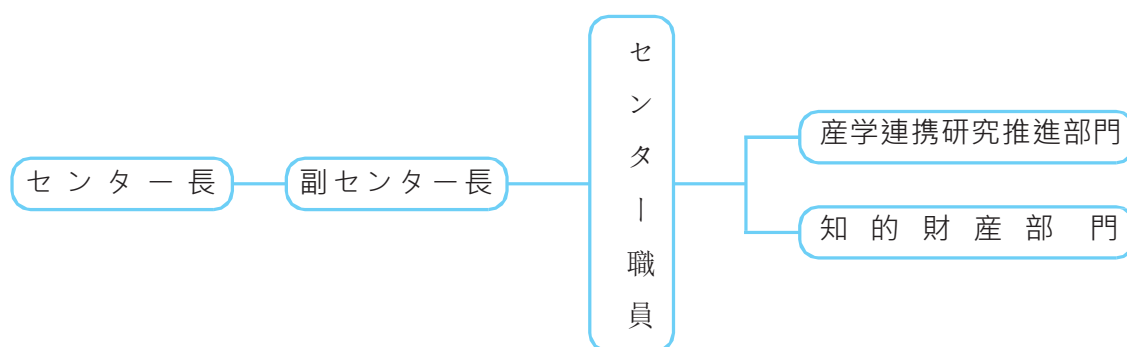
ビジネスセミナーでは身だしなみや挨拶の仕方などの基本的なビジネスマナーを学びます。他にメイクアップセミナーや履歴書の書き方を学ぶ講習会などもあります。

地域連携研究推進センター

地域連携研究推進センターは、本校の教職員の教育・研究の成果を地域に発信し、また地域・産業界のニーズを受け、技術開発及び産業の活性化に貢献します。また「生涯学習」「地域文化交流及び地域課題の解決」に取り組みます。

当センターには、センター業務を円滑に遂行するために「産学連携研究推進部門」及び「知的財産部門」を設けており、機動的に活動できる組織となっています。

地域連携研究推進センター組織図



平成30年度公開講座一覧

講座名	開設期間	対象者
多読図書の読み聞かせ	平成30年7月28日(土)	一般
ミニロボットフェスティバル	平成31年3月25日(月)	小中学生・一般

平成30年度出前授業一覧

講座名	開催期間	実施校等
4足歩行ロボットの製作とコンテスト	平成30年8月18日(土)	うるま市・金武町の小中学生対象
アクリル発光ボード制作		
Scratchで始めるゲームプログラミング		
土の中の生物を観察してみよう		
工作教室		
振動で動くロボットを作ろう!	平成30年8月22日(水)	沖縄市あげだ児童館
熱処理と変形	平成30年8月30日(木)	本部町立上本部中学校
鉛筆を使ってプラスチックの硬さを測ろう		
風船ホバーづくり	平成30年9月8日(土)	沖縄アミークスインターナショナル
LEDに関する講義と発光アクリルボード製作	平成31年3月12日(火)	宮古島市立平良中学校
飛行機の飛ぶ原理についての講義		

平成29年度出前授業一覧

講座名	開催期間	実施校等
LED を点灯させよう	平成29年9月30日(土)	嘉数中学校
低融点合金を活用したアクセサリーの制作		
使い捨てカイロを作ろう		
ホタルの生態や発光実験を通して身近な環境や自然について考える	平成29年9月30日(土)	琉球大学附属小学校
ロボットづくりの魅力	平成30年3月1日(木)	名護市立名護小学校
液体窒素を使った実験	平成30年3月19日(月)	宮古島市立久松中学校
アクリル発光ボード制作実験		



Scratchで始めるゲームプログラミング



土の中の生物を観察してみよう

産業界との連携

平成16年4月に沖縄県内の経済・産業界を中心として、沖縄高専の教育・研究活動を側面から支援するとともに、産学間の共同研究を推進し、産業振興に寄与することを目的に「沖縄工業高等専門学校産学連携協力会」が設置され、企業等を対象とした研修事業の実施や技術交流・技術相談等の交流事業などの活動が行われています。また、現在、県内外の108の企業団体及び24の個人会員で組織しています。



沖縄高専産学連携協力会総会



沖縄高専フォーラム

教育福祉推進室

教育福祉推進室は、学生権利擁護の観点から、学生、保護者、教職員から寄せられる相談に応じ、安心して相談できる環境を提供します。臨床心理士の資格をもつカウンセラー（非常勤）が、授業期間中の平日は毎日、相談員として相談に応じています。相談の結果、学生が自分の問題を自分で解決し、学生生活を改善していくことができるように、学内外の連携を強化し、必要な支援の調整にあたります。



カウンセリングルームの様子



サポートルームの様子

情報処理センター

本校では、校舎だけでなく学生寮も含め、建物内のほとんどの場所でネットワークが使える環境を整えております。情報処理センターはサーバやネットワーク、共有ファイルシステム、無線 LAN システムなどの管理、運用を行っています。また、学生が活用しているノートパソコンにトラブルが発生した際の技術相談も行っています。



ネットワーク管理室



学生のノートパソコン対応

IT教室

本校では、情報化社会に対応するために、学生一人ひとりがコンピューターを活用することができることを目的としています。

IT 教室では入学時に各々が購入したノートパソコンを利用して、全学科共通科目の「情報技術の基礎」や英語教育などを行っています。



English Skills の授業

CALL教室

CALL 教室は、コンピュータ支援による語学学習教室で、50 席を有しています。English Skills 等の英語科目授業では、視聴覚教材を用いた多聴や、シャドーイング、リピーティング、オーバーラッピングなどの練習を、CALL 教室にて実施しています。



English Skills の授業

視聴覚ホール

視聴覚ホールは、座席数が 201 席と本校最大の収容人数を有するマルチホールです。このホールは、マルチメディア対応 AV システムなどの視聴覚機器を利用した講義をはじめ、学校説明会、シンポジウムなどの会場として、また、備え付けのグランドピアノを使った音楽の教室としても使用しています。



視聴覚機器を利用した授業



産業創造セミナーの授業風景

教育・実験棟

教育・実験棟は、沖縄県で自生・栽培されている亜熱帯性の植物資源の利活用を目標としており、ガラス室、実験室、セミナー室の3室から構成されています。本棟において植物資源を展示するとともに、植物資源の周年育成、資源のストック、資源の試験の育成、新規植物資源の開発などの教育及び実験を行います。

これまでにジャポチカバウインの製造、ボチョウジ類の遺伝的多様性評価、亜熱帯植物からの神経保護効果機能を持つ物質の探索等の成果を挙げ、セミナー室では授業の他、沖縄県サイエンスリーダー育成講座等の公開講座を開催しています。



教育・実験棟

体育施設

本校では、充実した体育施設が整備されています。体育施設には屋外運動場と体育館があり、授業やクラブ活動、スポーツレクリエーション大会などで利用しています。屋外運動場には、陸上競技場、多目的グラウンド(野球場)、テニスコートがあり、これらは夜間照明付きです。陸上競技場は400mトラックから成り、フィールド内は天然芝でサッカー等を行うことができます。テニスコートはオムニコートとなっており、本格的なテニスを楽しめます。体育館にはバスケットボールやバレーボールを行うアリーナや、格技場、伝統芸能道場、トレーニングルーム、屋外プールがあります。伝統芸能道場は、防音装置付きの部屋で、ダンスだけでなく音楽演奏も行うことができます。トレーニングルームにはウェイトトレーニング機器があり、各種筋力トレーニングを行うことができます。また、体育施設内には、部室やロッカールーム、個室シャワーがあります。これらの体育施設は学生生活を豊かにし、学生の発育成長と健康づくりに寄与しています。



屋外運動場



体育館アリーナ

沿革

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成14年4月10日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成14年法律第23号）」の公布により、平成14年10月に開学しました。平成16年1月28日の1期工事竣工を経て、同年4月10日に第1回入学式を挙行し、175名の第1期生が入学しました。

沿革の年譜

平成9年（1997）

- 1月22日
沖縄政策協議会プロジェクトチーム現地会合において、沖縄県側から国立工業高等専門学校の誘致について要請

平成11年（1999）

- 8月11日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校の早期設置に関する要望書の提出
- 9月27日
稲嶺沖縄県知事から国立高等専門学校設置候補地について名護市辺野古地区を推薦
- 12月28日
「国立高等専門学校設置の確実な実現」が盛り込まれた「沖縄県北部地域の振興に関する方針」等が閣議決定

平成12年（2000）

- 3月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査室を琉球大学に設置
- 3月17日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備調査委員会を設置
- 4月1日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会を設置
- 8月10日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（中間まとめ）」を取りまとめ公表

平成13年（2001）

- 4月20日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教育方法・課程等部会及び施設・設備等部会を設置
- 7月27日
国立高等専門学校（沖縄）の設置に必要な用地の取得等について依頼

平成14年（2002）

- 1月24日
国立高等専門学校（沖縄）創設準備委員会教員選考部会を設置
- 4月10日
国立学校設置法改正
- 6月5日
「国立高等専門学校（沖縄）の創設について（最終まとめ）」を取りまとめ公表
- 10月1日
沖縄工業高等専門学校開学（機械システム工学科、情報通信システム工学科、メディア情報工学科、生物資源工学科）初代校長に琉球大学教授工学博士系村昌祐が就任
- 10月24日
沖縄工業高等専門学校開学記念シンポジウムの開催

平成15年（2003）

- 2月27日
沖縄工業高等専門学校起工式の挙行
- 3月31日
事務室をNTT名護別館（名護市大東）に移転

平成16年（2004）

- 1月10日
推薦による選抜試験の実施
- 1月28日
第Ⅰ期工事竣工
- 2月22日
学力検査による選抜試験の実施
- 3月10日
名護市民会館にて第1期生に対する入学説明会を開催
- 3月22日
事務室を新校舎（辺野古）に移転
- 4月10日
第1回入学式を挙行、175名が入学
- 4月21日
沖縄工業高等専門学校産学連携協力を発足
- 8月2日
学生会発足
- 9月30日
第Ⅱ期工事竣工
- 10月31日
沖縄工業高等専門学校後援会設立総会開催
- 11月5日
沖縄工業高等専門学校竣工記念式典を挙行

平成17年（2005）

- 2月2日
レリーフ除幕式を挙行

平成21年（2009）

- 3月21日
第1回卒業式を挙行、147名が卒業
- 4月1日
専攻科（創造システム工学専攻）を設置
- 4月4日
第1回専攻科入学式を挙行、28名が入学

平成22年（2010）

- 4月1日
第2代校長に熊本大学教授工学博士伊東繁が就任

平成23年（2011）

- 3月19日
第1回専攻科修了式を挙行、27名が修了
- 3月25日
専攻科棟竣工

平成24年（2012）

- 4月27日
日本技術者教育認定機構（JABEE）認定

平成25年（2013）

- 4月3日
第10回入学式を挙行、166名が入学
- 9月21日
創立10周年記念式典を挙行

平成27年（2015）

- 4月1日
第3代校長に島根大学教授工学博士安藤安則が就任
- 4月1日
航空技術者プログラム設置

組織

教職員数

令和元年5月1日現在

	校長	教授	准教授	講師	助教	教員計	事務系職員	技術職員	看護師	合計
現員	1	22 (2)	25	9	7	65	29	10	1	106

() 内は特任教授で外数

会議・委員会

◆ 運営企画会議

◆ 教員会議

◆ 教務委員会

◆ 学生委員会

◆ 学生寮委員会

◆ 専攻科運営委員会

◆ 入学者選抜実施委員会

◆ 評価対応委員会

◆ 総務委員会

◆ FD・SD 実施委員会

◆ キャンパス・ハラスメント防止委員会

◆ 図書館運営委員会

◆ 男女共同参画推進委員会

◆ 技術室運営委員会

◆ 安全衛生委員会

◆ 知的財産委員会

◆ 航空人材育成委員会

◆ 遺伝子組換え生物等使用実験安全委員会

◆ 動物実験委員会

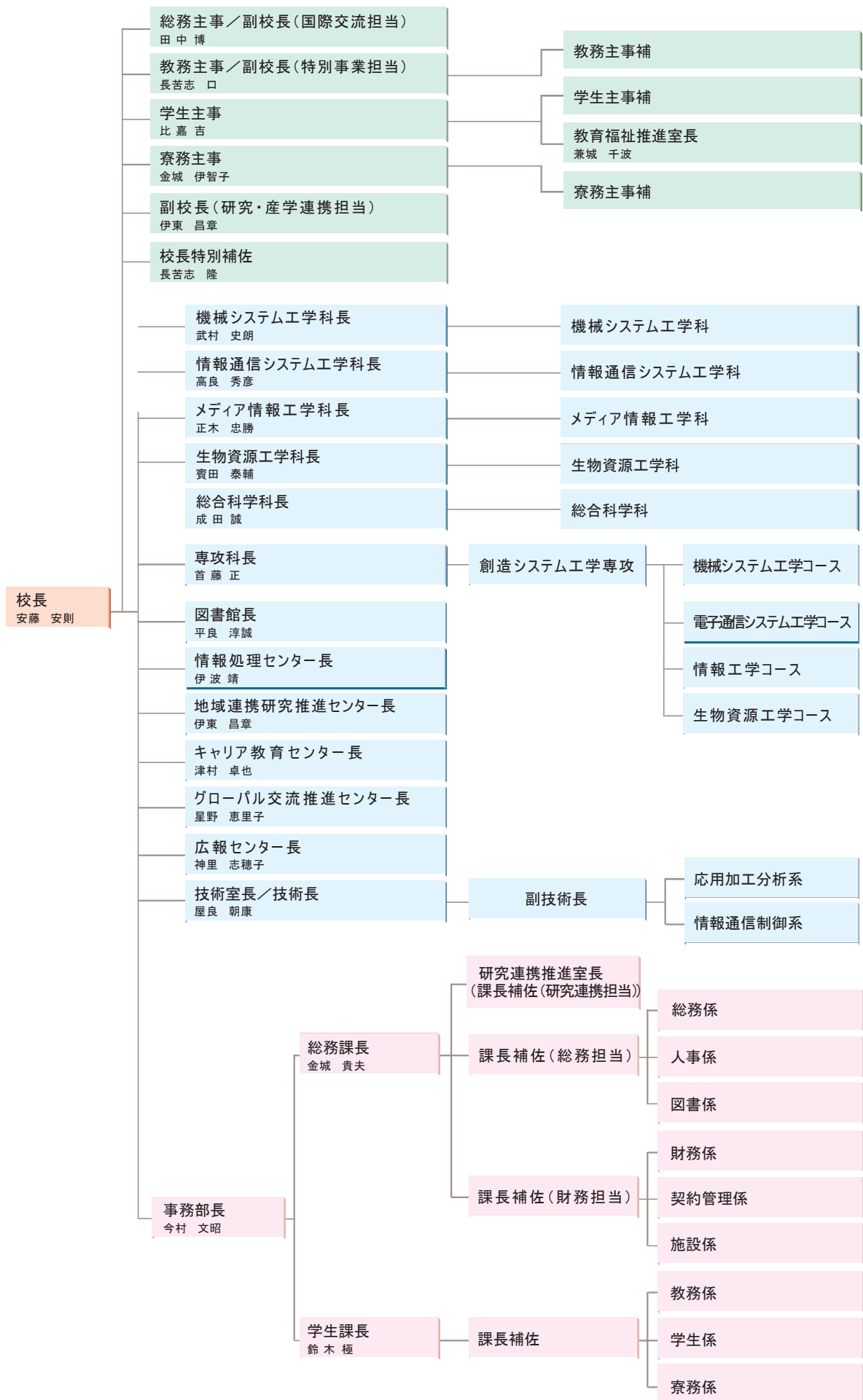
◆ ヒト研究倫理審査委員会

◆ 職員レクリエーション委員会

事務部連絡先

係	電話番号	メールアドレス
研究連携推進室	0980-55-4070	skrenkei@okinawa-ct.ac.jp
総務課 総務係	0980-55-4003	ssoumu@okinawa-ct.ac.jp
人事係	0980-55-4006	sjinji@okinawa-ct.ac.jp
図書係	0980-55-4037	stosyojoho@okinawa-ct.ac.jp
財務係	0980-55-4014	szaimu@okinawa-ct.ac.jp
契約管理係	0980-55-4020	sakkanri@okinawa-ct.ac.jp
施設係	0980-55-4023	ssisetu@okinawa-ct.ac.jp
学生課 教務係	0980-55-4028	gkyoumu@okinawa-ct.ac.jp
学生係	0980-55-4032	ggakusei@okinawa-ct.ac.jp
寮務係	0980-55-4039	gryoumu@okinawa-ct.ac.jp
学生寮	0980-55-4273	

組織図



教員の研究活動

科学研究費（「KAKENHI」）

令和元年5月1日現在

年度 / 研究種目	平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	採択件数	交付額（千円）	採択件数	交付額（千円）	採択件数	交付額（千円）
基盤研究（C）	9	16,380	10	12,350	10	12,142
若手研究（B）	3	3,120	0	0	0	0
若手研究	0	0	1	1,820	1	1,170
挑戦的研究（萌芽）	3	3,770	0	0	0	0
研究活動スタート支援	1	0	1	1,300	1	130
奨励研究	1	550	0	0	0	0
合計	17	23,820	12	15,470	12	13,442

平成31年度科学研究費採択課題

令和元年5月1日現在

研究題目	研究課題	研究代表者	研究期間
基盤研究（C）	考古学との協業による、金石文資料の蒐集・分析に基づく琉球寺院原風景の復元的研究	下 郡 剛	H27-H31
基盤研究（C）	国際連携型サステナブルな技術者育成フレームワークの構築と実践	山 田 親 稔	H29-H31
基盤研究（C）	重度・重複障害児のための実態把握に基づいた社会実装によるe-AT教材の開発	神里 志穂子	H29-H31
基盤研究（C）	多種同調産卵はミドリイシ属サンゴの雑種分化を引き起こすのか？	磯 村 尚 子	H29-H31
基盤研究（C）	衝撃成形レプリカ標本の「触れる」展示のための表面保護と再現性への影響評価	嶽本 あゆみ	H30-H32
基盤研究（C）	曳航型水中ロボットを用いた浅海域における海底3D地図作成の高速広域化	武 村 史 朗	H30-H32
基盤研究（C）	擬似移動層を用いた複数の反応プロセスの同時化によるバイオディーゼルの高効率合成	福 村 卓 也	H30-H32
若手研究	種間相互作用から解明する琉球列島近縁木2種の棲み分け	渡 邊 謙 太	H30-H33
基盤研究（C）	CSアンブラグドからフルフレジッド・プログラミングへの展開	玉 城 龍 洋	H31-H33
基盤研究（C）	昆虫抽出液を用いた高効率完全無細胞タンパク質合成系の構築	伊 東 昌 章	H31-H33
基盤研究（C）	不発弾海中爆破処理の影響評価と積極的環境負荷低減化手法の構築	比 嘉 吉 一	H31-H33
研究活動 スタート支援	消滅の危機に瀕した琉球諸語のモダリティ記述に関する基礎的研究	崎 原 正 志	H31

外部資金

令和元年5月1日現在

年度 / 研究費名	平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）	件数	金額（千円）
共同研究	30	22,879	25	21,512	28	19,892
受託研究	24	158,539	25	168,678	19	50,225
寄附金	10	4,198	25	10,111	21	12,892
受託事業	2	2,574	1	731	2	1,723
受託試験	0	0	0	0	0	0
補助金	2	1,790	0	0	0	0
合計	68	189,980	76	201,032	70	84,732

建物配置図・土地・建物

創造・実践棟

機械システム工学科
情報通信システム工学科
メディア情報工学科
生物資源工学科
総合科学科
専攻科

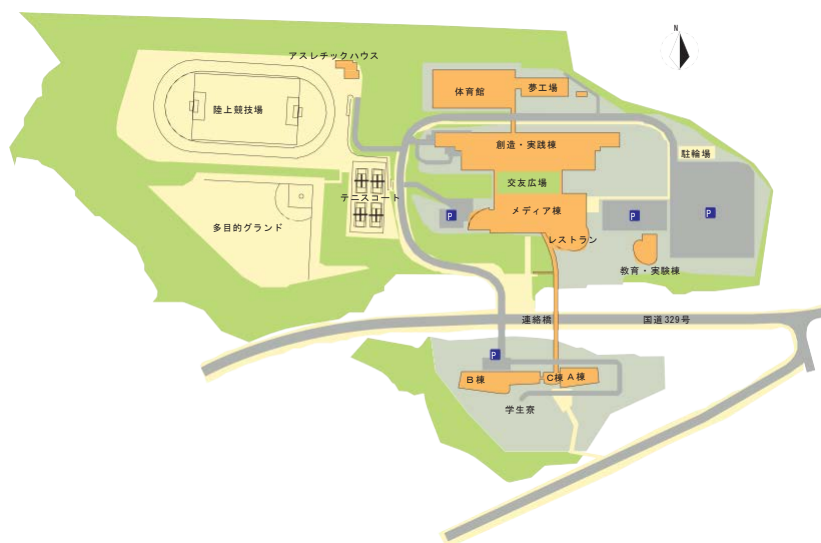
メディア棟

図書館 IT教室・
CALL教室 事務部
視聴覚ホール
レストラン

体育館

アリーナ
格技場
トレーニング場
伝統芸能道場
プール

土地



総面積	使用区分			
	校舎等	屋外運動場	学生寮	その他
156,056㎡	49,100㎡	36,100㎡	11,600㎡	59,256㎡

建物

区分	名称	構造	延面積
校舎等施設	創造・実践棟	R4	14,009㎡
	メディア棟	R4	5,023㎡
	夢工場	S2	665㎡
	教育・実験棟	S1	498㎡
体育施設	体育館	RS2	2,707㎡
	アスレチックハウス	R2	256㎡
学生寮施設	学生寮	R9	11,105㎡
合計			34,263㎡

学校行事

令和元年度 学年暦

(平成31年)
2019

4

- 4 / 1 (月) ... 学年及び前学期開始
- 4 / 2 (火) ... 入学式
- 4 / 3 (水) ... 新入生オリエンテーション
- 4 / 4 (木) ~ 4 / 5 (金) ... 健康診断
- 4 / 8 (月) ... 全学年授業開始
- 4 / 10 (水) ... 開校記念日
- 4 / 26 (金) ... スポーツイベント (旧: 体育祭)
- 4 / 28 (日) ... 進学相談会及び学校説明会 (宮古)

(令和元年)
2019

5

- 5 / 12 (日) ... 進学相談会及び学校説明会 (うるま市)
- 5 / 18 (土) ... 入学者選抜試験 (専攻科推薦選抜)
- 5 / 19 (日) ... 進学相談会及び学校説明会 (那覇)
- 5 / 25 (土) ... 進学相談会及び学校説明会 (石垣)

6

- 6 / 6 (木) ~ 6 / 7 (金) ... 前学期中間試験
- 6 / 15 (土) ... 入学者選抜試験 (専攻科学力選抜)
- 6 / 16 (日) ... 進学相談会及び学校説明会 (那覇)
- 6 / 24 (月) ~ 6 / 28 (金) ... 公開授業週間

7

- 7 / 12 (金) ~ 7 / 21 (日) ... 九州沖縄地区高専体育大会
- 7 / 22 (月) ~ 7 / 26 (金) ... 公開授業週間
- 7 / 27 (土) ... オープンキャンパス・寮見学ツアー

8

- 8 / 8 (木) ~ 8 / 14 (水) ... 前学期期末試験
- 8 / 24 (土) ... サマースクール
- 8 / 26 (月) ~ 9 / 20 (金) ... 夏季休講

9

- 9 / 24 (火) ... 後学期授業開始
- 9 / 28 (土) ... 進学相談会・寮見学ツアー

10

- 10 / 6 (日) ... 学校説明会 (那覇)
- 10 / 13 (日) ... ロボコン九州沖縄地区大会
- 10 / 26 (土) ~ 10 / 27 (日) ... 高専祭

11

- 11 / 19 (火) ~ 11 / 20 (水) ... 後学期中間試験

12

- 12 / 23 (月) ~ 1 / 3 (金) ... 冬季休講

(令和2年)
2020

1

- 1 / 18 (土) ... 入学者選抜試験 (本科推薦選抜)

2

- 2 / 7 (金) ~ 2 / 14 (金) ... 後学期期末試験
- 2 / 16 (日) ... 入学者選抜試験 (本科学力選抜)
- 2 / 25 (火) ~ 3 / 31 (火) ... 学年末休講

3

- 3 / 31 (火) ... 学年及び後学期終了

※色の付いている行事は、どなたでも参加可能です。但し、サマースクールは中学生を優先いたします。)

位置及び交通機関

県内から

- 「那覇バスターミナル～名護バスターミナル」間（系統番号77）、または、中部病院～名護バスターミナル」間（系統番号22）の路線バスにて「第二辺野古」下車、徒歩5分。
（バス路線の経由地詳細は、<http://okinawabus.com/>を参照願います。）
- 自動車の場合は、沖縄自動車道「宜野座 I.C.」を出て国道 329 号線を北に約 10 km 左側。国道上の歩道橋が目印です。）

県外から（空港からの所要時間：約 2 時間）

- 那覇（なは）空港国内線ターミナル到着 2 番バス停から 下記①または②のいずれか
- ①系統番号 111 「名護（なご）バスターミナル」行きに乗車。
「宜野座 I.C.（ぎのぞインターチェンジ）」下車、中央 公民館前」から系統番号 77 「名護バスターミナル」行きに乗換「第二辺野古（だいにへのこ）」下車、徒歩 5 分。
- ②系統番号 117 「オリオンもとぶリゾート」行きに乗車。「世富慶（よふけ）」下車、歩道橋を渡り道路反対側より系統番号 77 「那覇（なは）バスターミナル」行きに乗換「第二辺野古（だいにへのこ）」下車、徒歩 5 分。



独立行政法人 国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校

〒905-2192 沖縄県名護市字辺野古905番地 TEL (0980) 55-4003 [総務課総務係]
E-mail: ssoumu@okinawa-ct.ac.jp <http://www.okinawa-ct.ac.jp>